

2.1 自然的状況

2.1.1 大気環境

ア. 気象

対象事業実施区域及びその周辺における気象の観測は、**図 2.1-1** に示すとおり、対象事業実施区域より南西方向約 3.0km の位置にある福岡管区気象台で実施されており、気象概況は**表 2.1-1** 及び**図 2.1-2** に示すとおりです。

平均気温は 17.0℃であり、最高気温は 32.1℃、最低気温は 3.5℃となっています。年間の降水量は 1,612.3mm であり、3 月から 9 月にかけては 100mm/月を超えています。平均風速は年間を通じて 2.9m/s であり、最多風向については 3 月から 10 月は北、11 月から 2 月は南東となっています。1 年間の日照時間は 1,867.0 時間となっています。

表 2.1-1 気象の概況（福岡管区気象台 平年値）

年	平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)	降水量 (mm/年)	平均風速 (m/s)	最多風向	日照時間 (時間)
統計期間	1981～2010	1981～2010	1981～2010	1981～2010	1981～2010	1990～2010	1981～2010
資料年数	30	30	30	30	30	21	30
1 月	6.6	9.9	3.5	68.0	2.9	南 東	102.1
2 月	7.4	11.1	4.1	71.5	3.0	南 東	121.0
3 月	10.4	14.4	6.7	112.5	3.1	北	149.8
4 月	15.1	19.5	11.2	116.6	3.0	北	181.6
5 月	19.4	23.7	15.6	142.5	2.8	北	194.6
6 月	23.0	26.9	19.9	254.8	2.7	北	149.4
7 月	27.2	30.9	24.3	277.9	2.8	北	173.5
8 月	28.1	32.1	25.0	172.0	2.9	北	202.1
9 月	24.4	28.3	21.3	178.4	2.9	北	162.8
10 月	19.2	23.4	15.4	73.7	2.7	北	177.1
11 月	13.8	17.8	10.2	84.8	2.6	南 東	136.3
12 月	8.9	12.6	5.6	59.8	2.8	南 東	116.7
全 年	17.0	20.9	13.6	1,612.3	2.9	南 東	1,867.0

出典：「気象統計情報 過去の気象データ検索（福岡管区気象台）」（気象庁ホームページ）

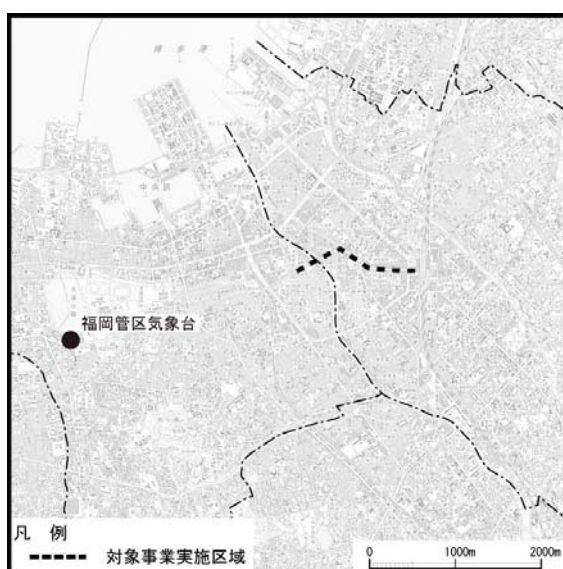


図 2.1-1 気象観測所位置図

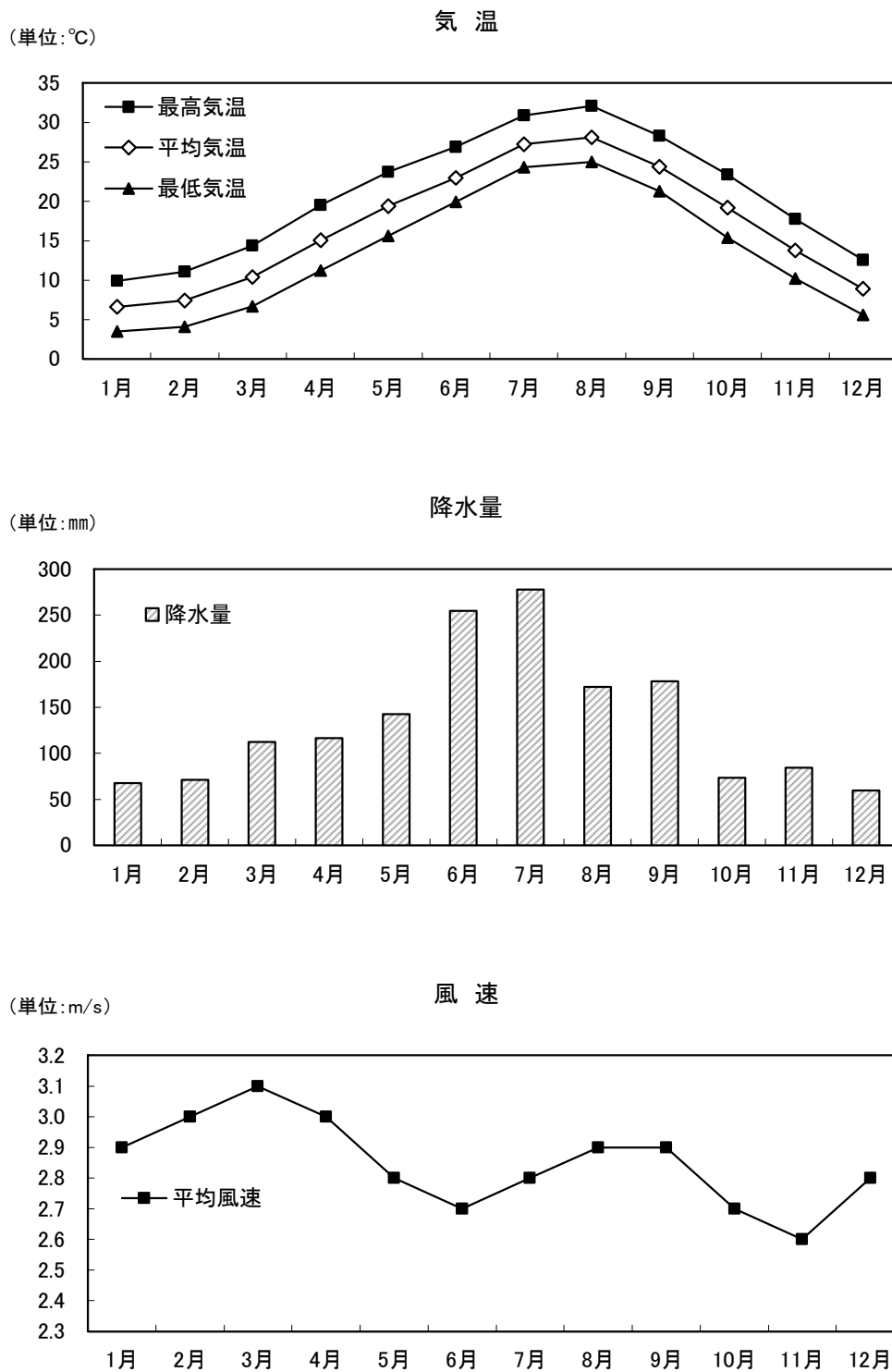


図 2.1-2 気象の概況 (1981年～2010年の平年値)

イ. 大気質

対象事業実施区域及びその周辺における大気質の観測は、図 2.1-3 に示すとおり、一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）で 2 局、自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）で 3 局実施されています。

また、一般局及び自排局とは別に、吉塚小学校で降下ばいじんの測定を行っています。平成 21 年度の大気質の測定項目は表 2.1-2 に示すとおりです。

表 2.1-2 (1) 大気質の測定項目（平成 21 年度：大気常時監視測定局）

種別	図中番号	測定局	所在地	測定項目				
				二酸化硫黄	二酸化窒素	一酸化炭素	光化学オキシダント	浮遊粒子状物質
				(SO ₂)	(NO ₂)	(CO)	(O ₃)	(SPM)
一般局	1	吉塚	博多区吉塚 6-8	○	○	—	○	○
	2	市役所	中央区天神 1-10-1	○	○	—	○	○
自排局	3	千鳥橋	博多区千代 5-1	—	○	—	—	○
	4	比恵	博多区東比恵 1-3	—	○	—	—	○
	5	天神	中央区天神 2-12	○	○	○	—	○

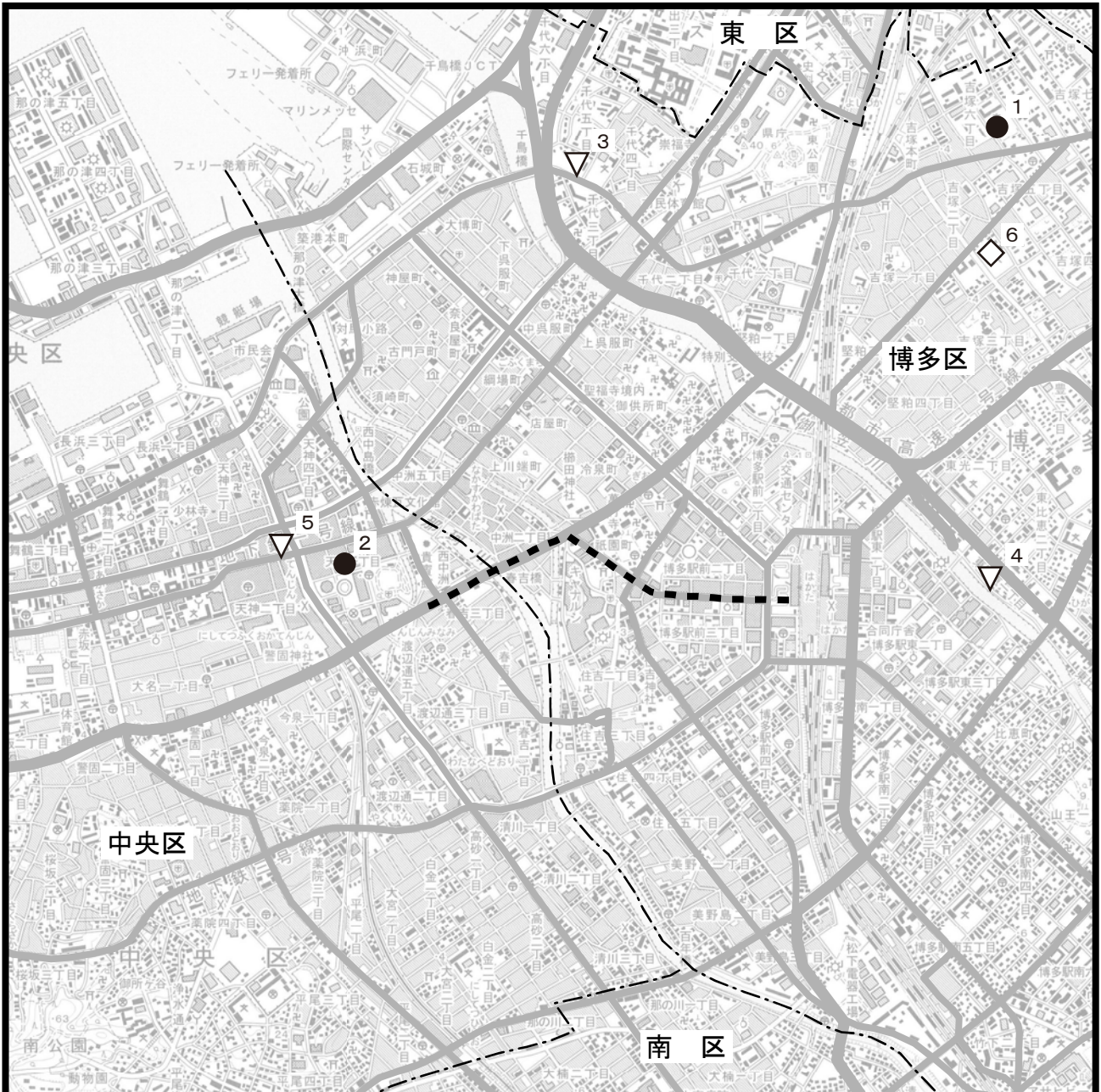
注) —：測定を行っていない項目

出典：「福岡市大気測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（平成23年2月、福岡市）

表 2.1-2 (2) 大気質の測定項目（平成 21 年度：降下ばいじん）

図中番号	測定地点名	所在地
6	吉塚小	博多区吉塚 2 丁目 21-54

出典：「福岡市大気測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（平成23年2月、福岡市）



凡例

- 対象事業実施区域
- 一般局
- ▽ 自排局
- ◇ 降下ばいじん測定地点

出典：「福岡市大気測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」
（平成23年2月、福岡市）

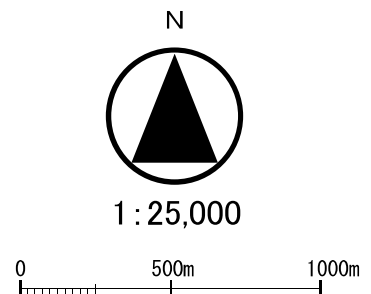


図2.1-3 大気測定地点

(7) 二酸化硫黄

平成 21 年度における二酸化硫黄の測定結果は表 2.1-3 に、年平均値及び日平均値の 2% 除外値の推移（平成 17 年度～平成 21 年度）は、表 2.1-4 及び図 2.1-4 に示すとおりです。

平成 21 年度における日平均値の 2%除外値は 0.005～0.007ppm であり、すべての測定局で環境基準を達成しています。

表 2.1-3 二酸化硫黄の測定結果（平成 21 年度）

種別	図中 番号	測定局	用途 地域	年 平均値	1 時間値が 0.1ppm を 超えた 時間数	日平均値が 0.04ppm を 超えた日数	1 時間 値の 最高値	日平均 値の 2% 除外値	日平均値が 0.04ppm を 超えた日が 2 日以上 連続した ことの有無	環境基準の 長期的評価 による 日平均値が 0.04ppm を 超えた日数
				(ppm)	(時間)	(日)	(ppm)	(ppm)	有× 無○	(日)
一般局	1	吉塚	準工	0.002	0	0	0.028	0.005	○	0
	2	市役所	商	0.003	0	0	0.035	0.006	○	0
自排局	5	天神	商	0.004	0	0	0.018	0.007	○	0

注) 用途地域 商：商業地域 準工：準工業地域

出典：「福岡市大気測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（平成23年2月、福岡市）

表 2.1-4 二酸化硫黄の経年変化

種別	図中 番号	測定局	年平均値 (ppm)					日平均値の 2%除外値 (ppm)				
			17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
一般局	1	吉塚	0.005	0.003	0.003	0.002	0.002	0.010	0.007	0.007	0.005	0.005
	2	市役所	0.004	0.004	0.004	0.003	0.003	0.009	0.009	0.008	0.006	0.006
自排局	5	天神	0.006	0.007	0.007	0.005	0.004	0.010	0.010	0.011	0.008	0.007

出典：「福岡市大気測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（平成23年2月、福岡市）

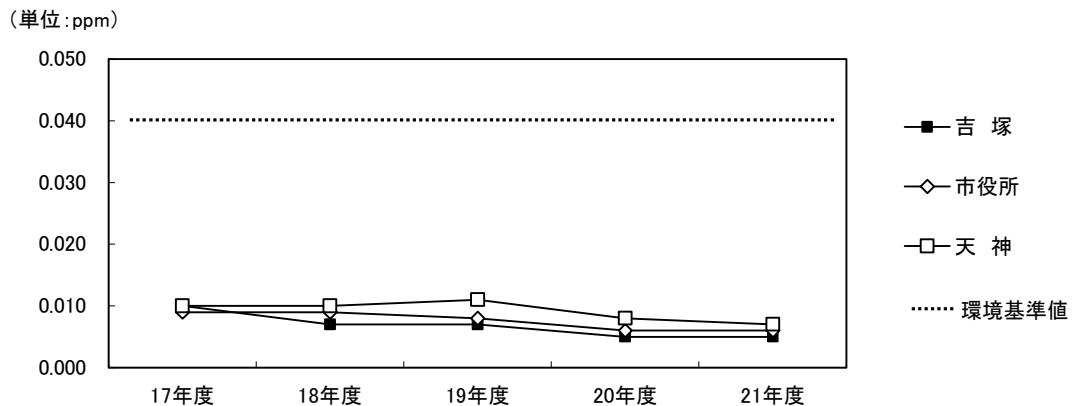


図 2.1-4 二酸化硫黄（日平均値の 2%除外値）の経年変化

(4) 二酸化窒素

平成 21 年度における二酸化窒素の測定結果は表 2.1-5 に、年平均値及び日平均値の年間 98%値の推移（平成 17 年度～平成 21 年度）は、表 2.1-6 及び図 2.1-5 に示すとおりです。

平成 21 年度における日平均値の年間 98%値は 0.026～0.061ppm であり、天神測定局以外は環境基準を達成しています。

表 2.1-5 二酸化窒素の測定結果（平成 21 年度）

種別	図中 番号	測定局	用途 地域	年平均値	1 時間値 の最高 値	1 時間値 が 0.2ppm を超えた 時間数	1 時間値 が 0.1ppm 以上 0.2ppm 以下の 時間数	日平均値 が 0.06ppm を超えた 日数	日平均値 が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下の 日数	日平均値 の年間 98%値	98%値評 価による 日平均値 が 0.06ppm を超えた 日数
				(ppm)	(ppm)	(時間)	(時間)	(日)	(日)	(ppm)	(日)
一般局	1	吉塚	準工	0.011	0.049	0	0	0	0	0.026	0
	2	市役所	商	0.020	0.094	0	0	0	4	0.038	0
自排局	3	千鳥橋	準工	0.024	0.080	0	0	0	18	0.044	0
	4	比恵	準工	0.018	0.067	0	0	0	1	0.036	0
	5	天神	商	0.041	0.112	0	19	14	175	0.061	7

注) 用途地域 商：商業地域 準工：準工業地域

出典：「福岡市大気測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（平成23年2月、福岡市）

表 2.1-6 二酸化窒素の経年変化

種別	図中 番号	測定局	年平均値 (ppm)					日平均値の年間 98%値 (ppm)				
			17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
一般局	1	吉塚	0.021	0.020	0.013	0.013	0.011	0.042	0.038	0.027	0.026	0.026
	2	市役所	0.024	0.023	0.022	0.021	0.020	0.041	0.038	0.039	0.036	0.038
自排局	3	千鳥橋	0.033	0.032	0.026	0.026	0.024	0.053	0.054	0.045	0.042	0.044
	4	比恵	0.026	0.026	0.023	0.019	0.018	0.048	0.041	0.038	0.032	0.036
	5	天神	0.041	0.040	0.042	0.040	0.041	0.062	0.059	0.065	0.060	0.061

出典：「福岡市大気測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（平成23年2月、福岡市）

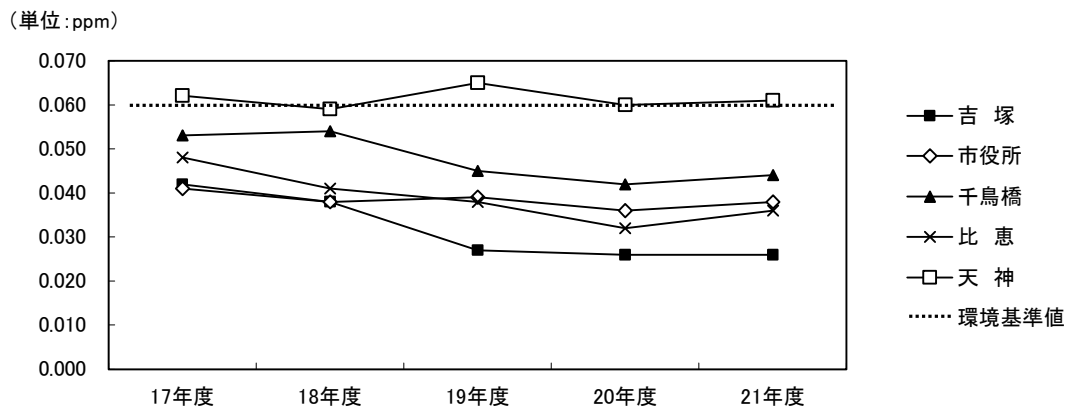


図 2.1-5 二酸化窒素（日平均値の年間 98%値）の経年変化

(ウ) 一酸化炭素

平成 21 年度における一酸化炭素の測定結果は表 2.1-7 に、年平均値及び日平均値の 2% 除外値の推移（平成 17 年度～平成 21 年度）は、表 2.1-8 及び図 2.1-6 に示すとおりです。

平成 21 年度における日平均値の 2% 除外値は 1.7ppm であり、環境基準を達成しています。

表 2.1-7 一酸化炭素の測定結果（平成 21 年度）

種別	図中 番号	測定局	用途 地域	年平均値	8 時間 値が 20ppm を 超えた 回数	日平均 値が 10ppm を 超えた 日数	1 時間 値が 30ppm 以上と なった こと がある 日数	1 時間 値の 最高値	日平均 値の 2% 除外値	日平均 値が 10ppm を 超えた 日が 2 日 以上連続 したこと の有無	環境基準 の長期的 評価に よる 日平均 値が 10ppm を 超えた 日数
				ppm	(回)	(日)	(日)	(ppm)	(ppm)	有× 無○	(日)
自排局	5	天 神	商	1.1	0	0	0	7.5	1.7	○	0

注) 用途地域 商：商業地域

出典：「福岡市大気測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（平成23年2月、福岡市）

表 2.1-8 一酸化炭素の経年変化

種別	図中 番号	測定局	年平均値 (ppm)					日平均値の 2% 除外値 (ppm)				
			17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
自排局	5	天 神	0.9	0.9	1.1	0.9	1.1	1.4	1.4	1.7	1.4	1.7

出典：「福岡市大気測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（平成23年2月、福岡市）

(単位: ppm)

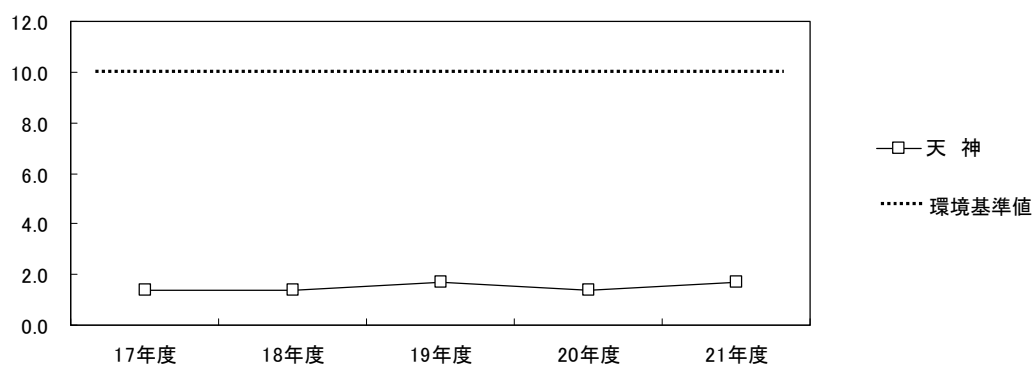


図 2.1-6 一酸化炭素（日平均値の 2% 除外値）の経年変化

(I) 光化学オキシダント

平成 21 年度における光化学オキシダントの測定結果は表 2.1-9 に、昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数の推移（平成 17 年度～平成 21 年度）は、表 2.1-10 に示すとおりです。

平成 21 年度における昼間の 1 時間値の最高値は 0.134～0.136ppm であり、すべての測定局で環境基準を達成していません。

また、「福岡県光化学オキシダント（光化学スモッグ）に係る緊急時対策基本要綱」に基づく光化学オキシダント注意報の発令基準である「昼間の 1 時間値が 0.12ppm 以上」の日数の推移（平成 17 年度～平成 21 年度）は、表 2.1-10 に示すとおりであり、すべての測定局で平成 21 年度に 2 日、光化学オキシダント注意報が発令されています。

表 2.1-9 光化学オキシダントの測定結果（平成 21 年度）

種別	図中 番号	測定局	用途 地域	昼間の 1 時間値 の 年平均値	昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた 日数とその時間数		昼間の 1 時間値が 0.12ppm 以上の 日数とその時間数		昼間の 1 時間値 の最高値	昼間の 日最高 1 時間値の 年平均値
				(ppm)	(日)	(時間)	(日)	(時間)	(ppm)	(ppm)
一般局	1	吉塚	準工	0.036	120	740	2	4	0.136	0.053
	2	市役所	商	0.032	76	434	2	3	0.134	0.045

注) 用途地域 商：商業地域 準工：準工業地域

出典：「福岡市大気測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（平成23年2月、福岡市）

表 2.1-10 光化学オキシダントの経年変化

種別	図中 番号	測定局	昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数（日）					昼間の 1 時間値が 0.12ppm 以上の日数（日）				
			17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
一般局	1	吉塚	51	52	79	76	120	0	0	0	0	2
	2	市役所	33	37	69	68	76	0	0	0	0	2

出典：「福岡市大気測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（平成23年2月、福岡市）

(オ) 浮遊粒子状物質

平成 21 年度における浮遊粒子状物質の測定結果は表 2.1-11 に、年平均値及び日平均値の 2%除外値の推移（平成 17 年度～平成 21 年度）は、表 2.1-12 及び図 2.1-7 に示すとおりです。

平成 21 年度における日平均値の 2%除外値は 0.063～0.070ppm であり、日平均値が 0.10mg/m³ を超えた日数が 2 日以上連続したことにより吉塚測定局で非達成であること以外は、すべての測定局で環境基準を達成しています。

表 2.1-11 浮遊粒子状物質の測定結果（平成 21 年度）

種別	図中番号	測定局	用途地域	年平均値	1 時間値が 0.20mg/m ³ を超えた時間数	日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日数	1 時間値の最高値	日平均値の 2% 除外値	日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日数が 2 日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日数
				mg/m ³	(時間)	(日)	(mg/m ³)	(mg/m ³)	有× 無○	(日)
一般局	1	吉塚	準工	0.029	8	2	0.845	0.066	×	2
	2	市役所	商	0.031	8	1	0.700	0.070	○	0
自排局	3	千鳥橋	準工	0.028	8	1	0.649	0.063	○	0
	4	比恵	準工	0.031	8	1	0.567	0.064	○	0
	5	天神	商	0.032	8	1	0.563	0.063	○	0

注) 用途地域 商：商業地域 準工：準工業地域

出典：「福岡市大気測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（平成23年2月、福岡市）

表 2.1-12 浮遊粒子状物質の経年変化

種別	図中番号	測定局	年平均値 (mg/m ³)					日平均値の 2%除外値 (mg/m ³)				
			17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
一般局	1	吉塚	0.035	0.034	0.033	0.028	0.029	0.078	0.072	0.091	0.055	0.066
	2	市役所	0.038	0.037	0.037	0.033	0.031	0.081	0.076	0.098	0.067	0.070
自排局	3	千鳥橋	0.026	0.027	0.029	0.030	0.028	0.057	0.062	0.091	0.057	0.063
	4	比恵	0.042	0.040	0.044	0.043	0.031	0.085	0.076	0.100	0.071	0.064
	5	天神	0.041	0.040	0.038	0.037	0.032	0.089	0.080	0.097	0.072	0.063

出典：「福岡市大気測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（平成23年2月、福岡市）

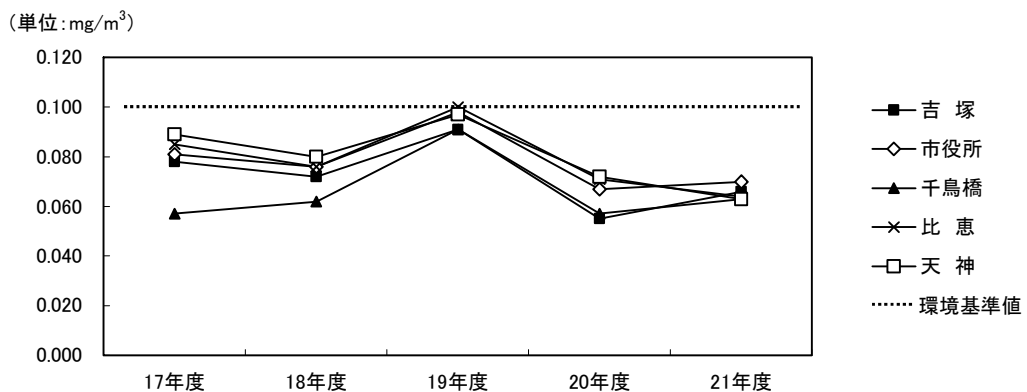


図 2.1-7 浮遊粒子状物質（日平均値の 2%除外値）の経年変化

(カ) 降下ばいじん

平成 21 年度における降下ばいじんの測定結果は表 2.1-13 に示すとおりです。

福岡市内では、吉塚小学校で毎月測定を行っており、不溶解性物質の平均値は 1.1t/km²/月、溶解性物質の平均値は 1.5t/km²/月、2 種類の物質を合わせた平均値は 2.6t/km²/月となっています。

表 2.1-13 降下ばいじんの測定結果（平成 21 年度：平均値）

図中番号	測定地点名	A. 不溶解性物質	B. 溶解性物質	A+B
		(t/km ² /月)	(t/km ² /月)	(t/km ² /月)
6	吉塚小	1.1	1.5	2.6

出典：「福岡市大気測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（平成23年2月、福岡市）

ウ. 騒音

(7) 自動車騒音

対象事業実施区域及びその周辺における平成21年度の自動車騒音の面的評価の結果は表2.1-14、面的評価区間は図2.1-8に示すとおりです。

このうち、環境基準を達成している戸数の比率は38.5～100%であり、最も低いのは「No.13 後野福岡線」の38.5%となっています。

なお、対象事業実施区域と交差する道路は、「No.6 一般国道202号」、「No.15 東光寺竹下春吉線」、「No.30 御供所井尻3号線」、「No.39 博多駅前線」であり、すべての道路で環境基準を達成している戸数の比率は100%となっています。

表2.1-14 自動車騒音面的評価の結果（平成21年度）

図中番号	路線名	騒音調査地点	道路端騒音レベル		評価対象戸数	環境基準達成戸数 (昼夜とも)	環境基準達成率 (%)	調査年度
			昼間 (dB)	夜間 (dB)				
1	一般国道3号	博多区堅粕4-1-1	68	64	1,622	1,622	100.0	H21
2	一般国道3号	博多区千代3-2	73	69	1,230	841	68.4	H21
3	一般国道3号	博多区千代3-18-3	74	70	438	264	60.3	H21
4	一般国道3号	博多区東比恵1-4	72	69	639	487	76.2	H19
5	一般国道202号	博多区堅粕1-1	67	62	481	481	100.0	H19
6	一般国道202号	博多区祇園町4	64	59	961	961	100.0	H19
7	一般国道202号	中央区大名1-1-12	69	67	1,705	1,441	84.5	H18
8	一般国道385号	博多区博多駅南1-15-31	66	61	1,677	1,677	100.0	H20
9	一般国道385号	南区清水2-4-9	68	66	1,605	1,451	90.4	H17
10	後野福岡線	博多区神屋町10	71	67	1,400	1,054	75.3	H19
11	後野福岡線	博多区大博町12	69	65	718	717	99.9	H20
12	後野福岡線	中央区高砂2-5	64	61	2,042	2,042	100.0	H21
13	後野福岡線	南区大楠1-35	72	71	1,577	607	38.5	H16
14	東光寺竹下春吉線	博多区美野島3-20-10	65	60	391	391	100.0	H18
15	東光寺竹下春吉線	中央区春吉2-9-25	66	63	2,688	2,688	100.0	H21
16	博多港線	博多区下呉服町2-8	64	59	1,144	1,144	100.0	H19
17	桧原比恵線	博多区博多駅東3-14	70	69	1,071	858	80.1	H19
18	桧原比恵線	博多区博多駅南2-3-15	67	65	1,690	1,690	100.0	H20
19	桧原比恵線	博多区美野島2-16	71	69	1,522	1,037	68.1	H17
20	桧原比恵線	南区那の川2-4-30	68	65	1,627	1,599	98.3	H18
21	福岡篠栗線	博多区千代1-26	70	67	1,182	963	81.5	H17
22	福岡篠栗線	博多区吉塚本町3-19	71	68	1,872	1,311	70.0	H17
23	福岡筑紫野線	中央区警固1-11-2	68	66	2,527	2,379	94.1	H21
24	福岡筑紫野線	中央区平尾1-11-18	70	68	3,053	2,391	78.3	H21
25	福岡筑紫野線	南区高宮1-2-16	70	69	1,625	941	57.9	H17
26	福岡直方線	東区馬出1-1	66	61	2,288	2,288	100.0	H21
27	馬出上南町線	博多区吉塚5-6-35	66	59	1,171	1,170	99.9	H17
28	吉塚停車場線	東区馬出1-21-1	66	59	1,150	1,150	100.0	H17
29	上牟田清水線	博多区博多駅南6-14	69	67	965	634	65.7	H18
30	御供所井尻3号線	博多区住吉3-1	67	62	4,228	4,228	100.0	H21
31	千鳥橋唐人町線	中央区舞鶴1-5-30	70	68	2,087	1,886	90.4	H17
32	千鳥橋唐人町線	中央区舞鶴3-4	66	62	4,697	4,697	100.0	H21
33	千代粕屋線	博多区千代4-17-47	68	64	922	901	97.7	H19
34	長浜博多駅1号線	中央区舞鶴3-9	66	64	1,251	1,145	91.5	H19
35	博多駅春日原2号線	博多区山王1-11-26	66	63	1,537	1,537	100.0	H19
36	博多駅草香江線	博多区住吉4-1-1	66	63	1,943	1,943	100.0	H18
37	博多駅草香江線	中央区渡辺通2-4	68	66	1,162	1,111	95.6	H19
38	博多駅五十川線	博多区博多駅南3-18-4	67	63	1,068	1,068	100.0	H19
39	博多駅前線	博多区博多駅前2-5-17	65	61	429	429	100.0	H19
40	博多姪浜線	博多区綱場町9	67	63	1,192	1,192	100.0	H20
41	博多姪浜線	中央区舞鶴3-2-9	69	66	3,172	2,970	93.6	H18

出典：「ふくおかの環境」（平成22年度版 福岡市）

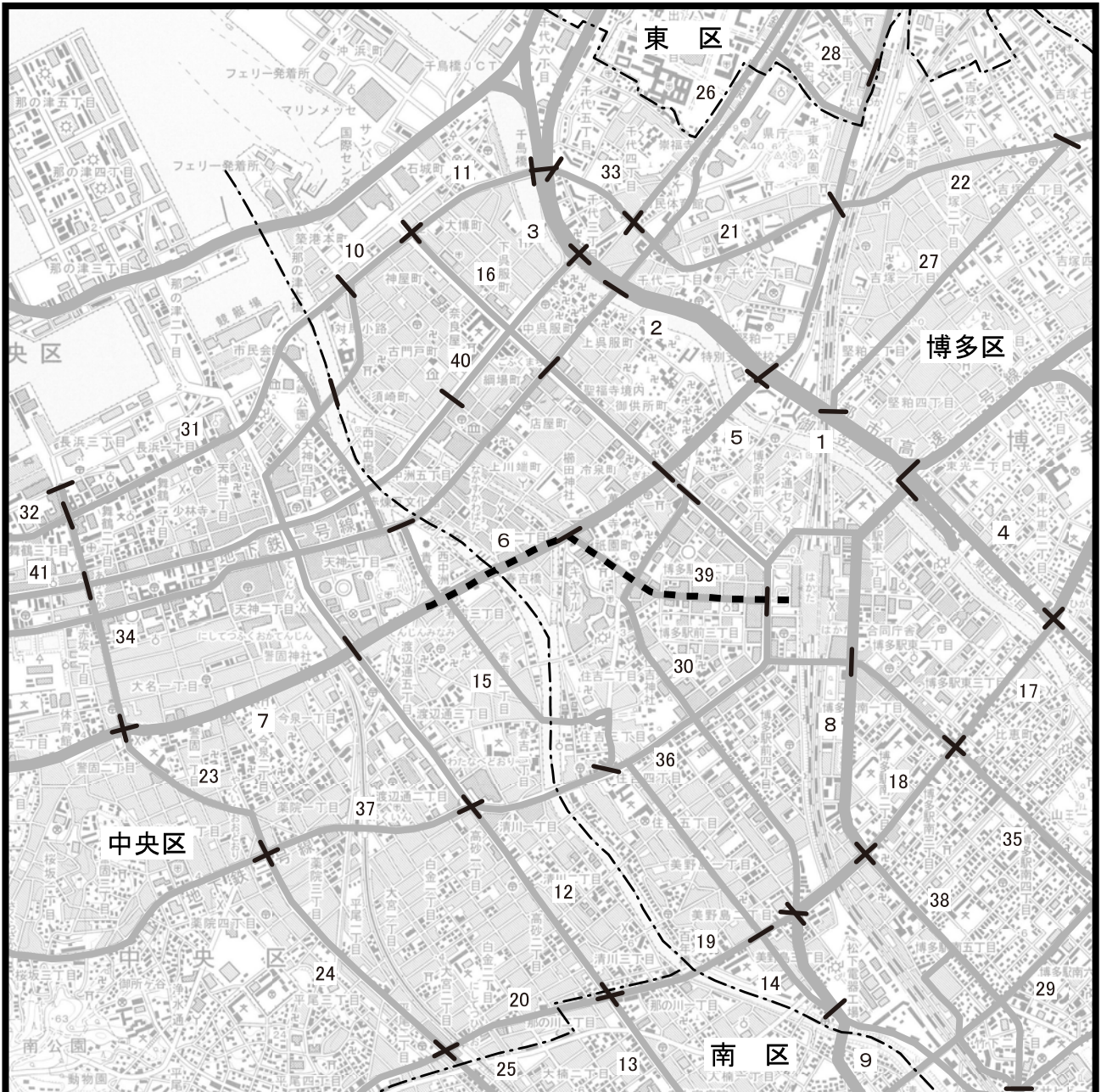
また、図中番号3の一般国道3号では、毎年測定を実施しており、表2.1-15に示す平成16年度～平成21年度の経年変化をみると、70%未満と低い達成率で推移しています。

表2.1-15 定点観測地点の自動車騒音面的評価の経年変化（平成17年度～平成21年度）

図中 番号	路線名	調査 年度	道路端騒音レベル		評価対象 戸数	環境基準 達成戸数 (昼夜とも)	環境基準 達成率 (%)
			昼間 (dB)	夜間 (dB)			
3	一般国道3号	H16	75	71	376	239	64.0
		H17	75	71	419	210	50.1
		H19	74	70	426	289	67.8
		H20	74	70	427	279	65.3
		H21	74	70	438	264	60.3

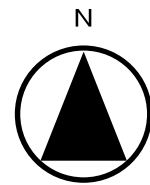
※平成18年度は欠測。

出典：「ふくおかの環境」（平成22年度版 福岡市）

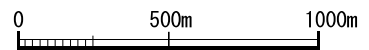


凡例

- 対象事業実施区域
- 自動車騒音面的評価区間



1 : 25,000



出典：「平成 21 年度の環境監視の結果」（平成 22 年 8 月、福岡市）

図2.1-8 騒音面的評価区間

(イ) 航空機騒音

対象事業実施区域及びその周辺における平成 21 年度の航空機騒音の測定結果は表 2.1-16 に、測定地点は図 2.1-9 に示すとおりです。

測定は、福岡市立東光会館で行われており、環境基準を達成しています。

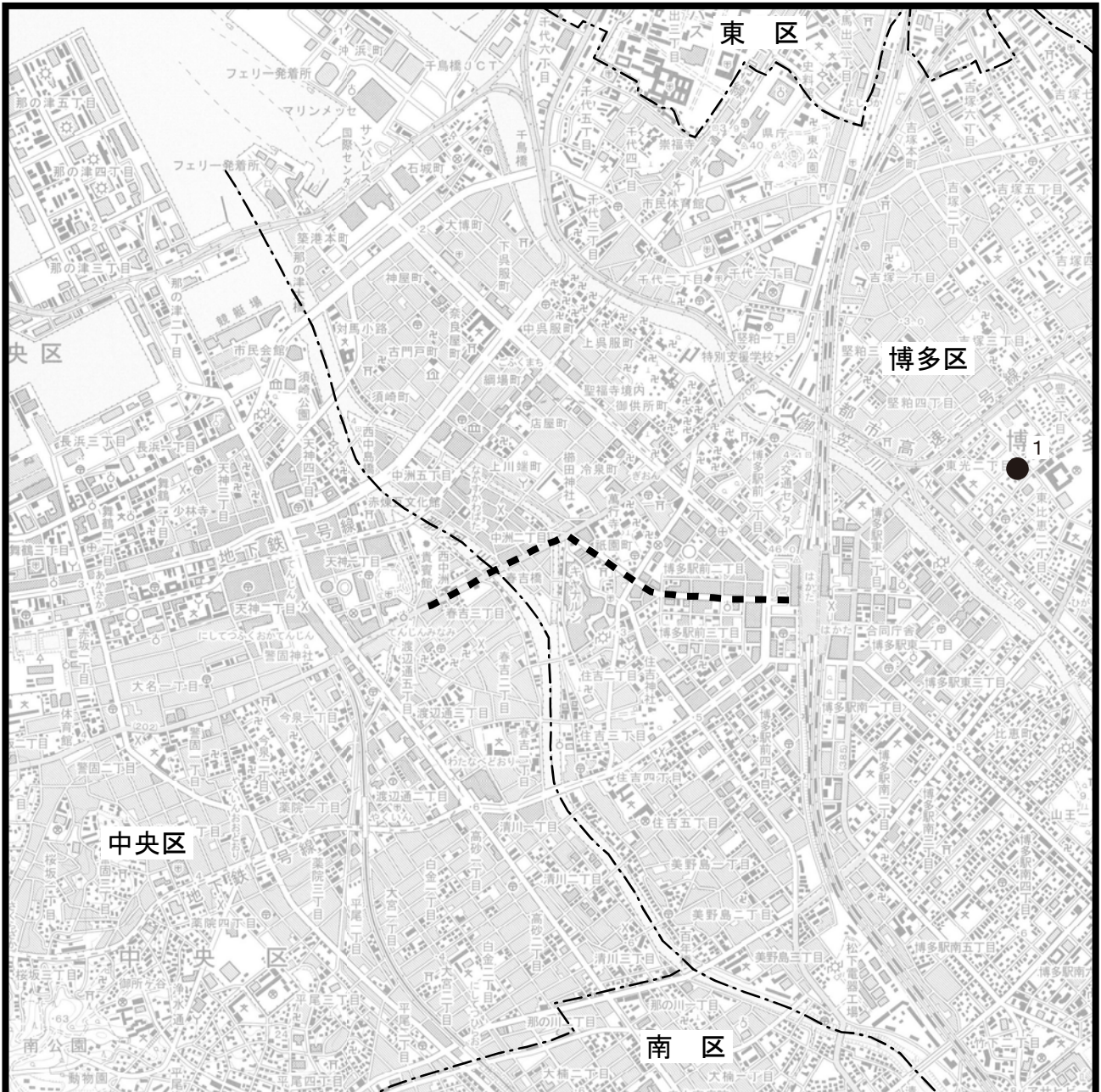
表 2.1-16 航空機騒音の測定結果（平成 21 年度）

図中 番号	測定場所	測定地点	測定期間	環境基準値 (WECPNL)	測定結果 (WECPNL)
1	博多区東光 2	福岡市立東光会館	H22. 1. 13～H22. 1. 19	75 以下	64

出典：「ふくおかの環境」（平成22年度版 福岡市）

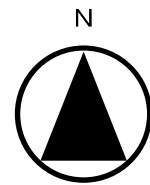
(ウ) 鉄道騒音

福岡市内で新幹線鉄道及び在来線鉄道の騒音の測定を行っていますが、対象事業実施区域及びその周辺では測定は行われていません。

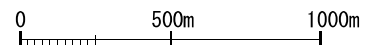


凡例

- 対象事業実施区域
- 航空機騒音測定地点



1 : 25,000



出典：「ふくおかの環境」（平成22年度版 福岡市）

図2.1-9 航空機騒音の測定地点

エ. 振 動

(7) 道路交通振動

対象事業実施区域及びその周辺における平成 21 年度の道路交通振動は、表 2.1-17 及び図 2.1-10 に示す 4 地点で測定が行われています。

測定した 4 地点すべてにおいて、要請限度を下回っています。

表 2.1-17 道路交通振動測定結果（平成 21 年度）

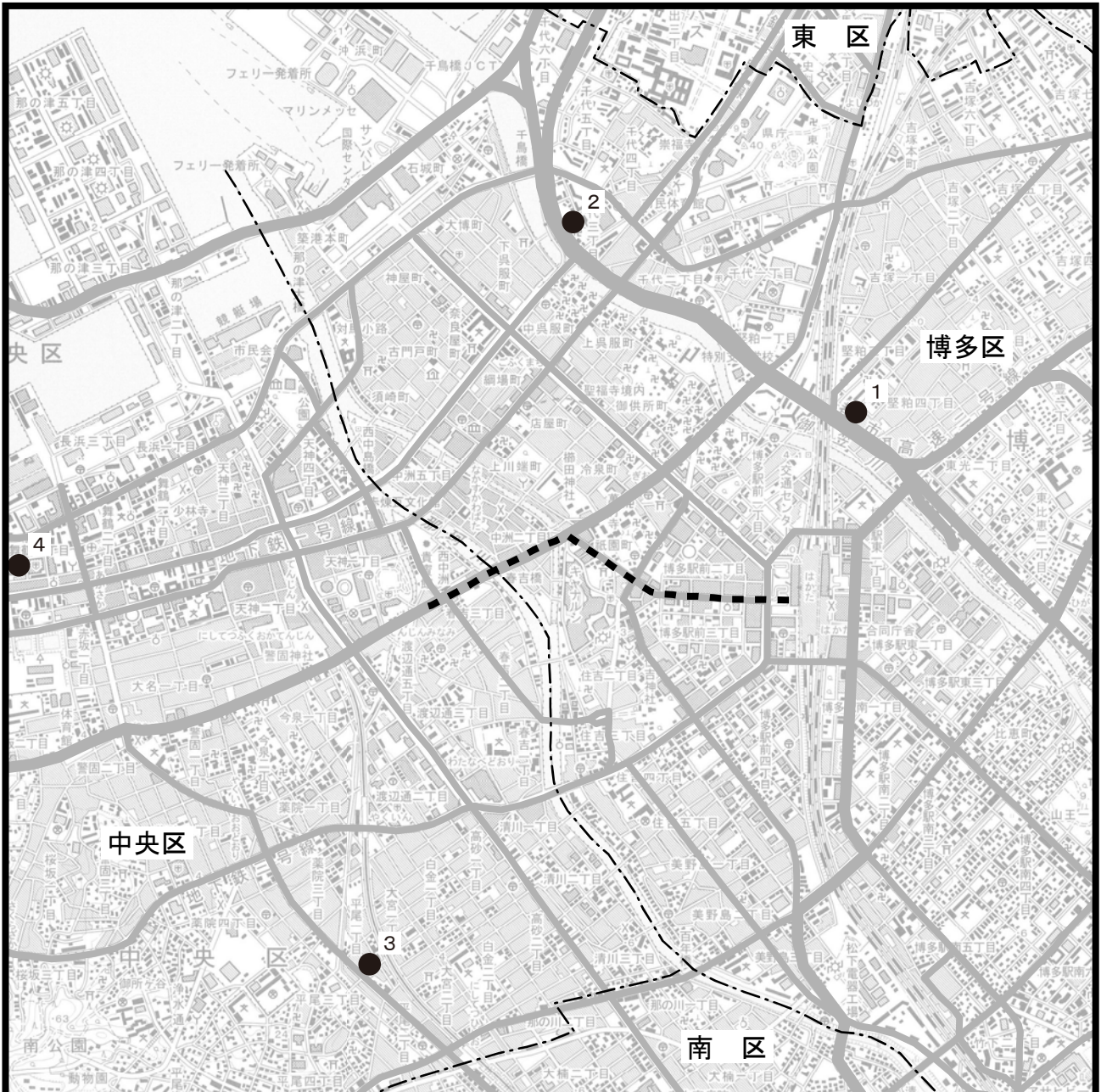
図中 番号	路線名	調査地点	測定値 (振動レベル L_{10})		要請限度	
			昼 間 (dB)	夜 間 (dB)	昼 間 (dB)	夜 間 (dB)
1	一般国道 3 号	博多区堅粕 4-1-1	42	39	70	65
2	一般国道 3 号	博多区千代 3-18-3	45	42	70	65
3	福岡筑紫野線	中央区平尾 1-11-18	45	42	70	65
4	千鳥橋唐人町線	中央区舞鶴 3-4	47	44	70	65

注) 時間の区分：昼間 8 時～19 時、夜間 19 時～8 時

出典：「ふくおかの環境」（平成22年度版 福岡市）

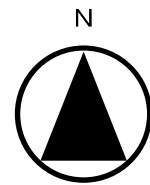
(4) 鉄道振動

福岡市内で新幹線鉄道及び在来線鉄道の振動の測定を行っていますが、対象事業実施区域及びその周辺では測定は行われていません。

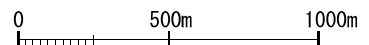


凡例

- 対象事業実施区域
- 道路交通振動観測地点



1 : 25,000



出典：「ふくおかの環境」（平成22年度版 福岡市）

図2.1-10 振動測定地点

オ. 悪 臭

対象事業実施区域及びその周辺における公表された悪臭の測定結果はありません。

福岡市における悪臭に関する過去5ヶ年の苦情発生件数は表2.1-18に、平成19年度の苦情の割合は図2.1-11に示すとおりです。

平成19年度の悪臭の苦情は125件あり、発生源別で見ると、最も多かったものが一般事務所や飲食店といったサービス業その他の事業が37件（30%）と最も多く、次いで、アパート・個人住宅等が17件（14%）となっています。

悪臭苦情は大気汚染等、他の公害苦情に付随して発生することも多いため、福岡市では工場、事業場等に対する指導等を進めています。

表 2.1-18 悪臭苦情件数

年 度	畜産農業	肥料・飼料 製造工場	食品製造 工場	化学工場	その他 製造工場	サービス業 その他	移動発生源	建設作業 現場	下水・用水	ごみ集積場	個人住宅等 アパート	不明	合計
平成15年度	8	0	12	2	4	23	3	16	14	1	14	21	118
平成16年度	4	3	9	1	12	42	0	14	9	1	28	19	142
平成17年度	2	1	10	0	17	33	1	14	13	1	30	20	142
平成18年度	8	0	10	0	18	37	0	11	10	2	17	17	130
平成19年度	3	2	10	0	11	37	0	14	11	2	17	18	125

出典：「福岡地域公害防止計画」（平成21年3月、福岡県）

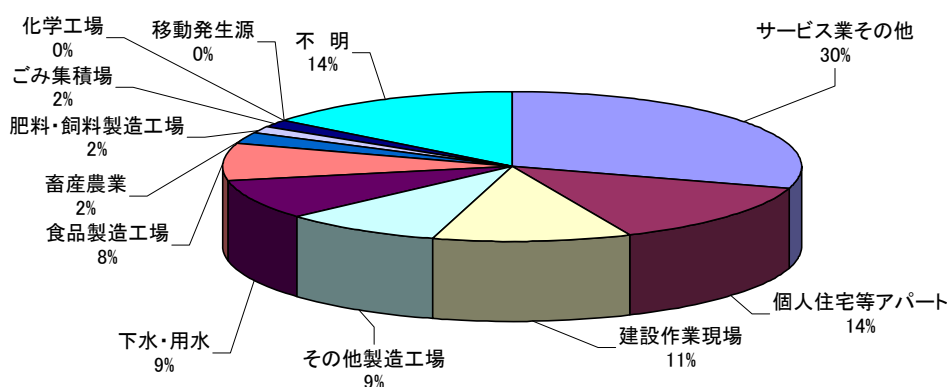


図 2.1-11 福岡市内の悪臭苦情の割合（平成19年度）

カ. その他の大気に係る環境

(7) 有害大気汚染物質

有害大気汚染物質対策の推進について、大気汚染防止法が平成18年3月に改正され、将来にわたって人の健康に係る被害が未然に防止されるよう規定されています。

対象事業実施区域及びその周辺における有害大気汚染物質の毎月調査の測定結果は、表2.1-19に、測定地点はp.18の図2.1-3に示すとおりです。

対象事業実施区域より北東方向2.3kmの位置にある吉塚測定局（一般局）における有害大気汚染物質に関する平成21年度の測定結果（環境基準項目）は、ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン及びジクロロメタンは環境基準を達成しています。

また、大気中の有害大気汚染物質による健康リスクの低減を図るための指針となる数値（指針値）が設定されており、アクリロニトリル、塩化ビニルモノマー、クロロホルム、1,2-ジクロロエタン、1,3-ブタジエン、水銀及びその化合物、ニッケル化合物が指針値を下回っています。

表 2.1-19 (1) 有害大気汚染物質（環境基準設定項目）の測定結果

(平成21年度 年平均値)

図中 番号	測定局	ベンゼン	トリクロロ エチレン	テトラクロロ エチレン	ジクロロ メタン
		($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)
1	吉塚	1.6	0.076	0.24	1.5
	環境基準値	3	200	200	150

出典：「福岡市大気測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」
(平成23年2月、福岡市)

表 2.1-19 (2) 有害大気汚染物質（指針値等設定項目）の測定結果

(平成21年度 年平均値)

番号	測定局	アクリロ ニトリル	アセト アルデヒド	塩化ビニル モノマー	クロロ ホルム	酸化 エチレン	1,2-ジク ロロエタン	1,3- ブタジエン	ホルム アルデヒド
		($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)
1	吉塚	0.065	1.7	0.042	0.20	0.097	0.23	0.15	1.7
	指針値等	2	5 ^注	10	18	—	1.6	2.5	0.8 ^注

注) EPA10⁻⁵：米国環境保護庁（EPA）が設定したユニットリスクに基づく10⁻⁵リスクレベル換算値

出典：「福岡市大気測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」(平成23年2月、福岡市)

表 2.1-19 (3) 有害大気汚染物質（指針値等設定項目）の測定結果

(平成21年度 年平均値)

番号	測定局	ベンゼン [a] ピレン	水銀及び その化合物	ニッケル 化合物	ヒ素及び その化合物	ベリリウム 及び その化合物	マンガン 及び その化合物	クロム及び その化合物
		(ng/m^3)	(ng/m^3)	(ng/m^3)	(ng/m^3)	(ng/m^3)	(ng/m^3)	(ng/m^3)
1	吉塚	0.13	2.0	4.6	1.3	0.013	20	3.4
	指針値等	0.11 ^{注2}	40	25	2 ^{注1}	4 ^{注1}	150 ^{注2}	—

注1) EPA10⁻⁵：米国環境保護庁（EPA）が設定したユニットリスクに基づく10⁻⁵リスクレベル換算値

注2) WHO 欧州：WHO 欧州地域事務局のガイドライン値

出典：「福岡市大気測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」(平成23年2月、福岡市)

対象事業実施区域及びその周辺における、ダイオキシン類特別措置法に基づく調査は、2地点で行われています。

測定結果は表 2.1-20 に、測定地点は図 2.1-3 (p. 18 参照) に示すとおりであり、環境基準を達成しています。

表 2.1-20 ダイオキシン類の測定結果 (平成 21 年度 年平均値)

図中番号	測定局	ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)
1	吉塚	0.024
2	市役所	0.031
環境基準値		0.6

出典：「福岡市大気測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」
(平成23年2月、福岡市)

(イ) アスベスト

大気中のアスベストに係る環境基準は設定されていませんが、参考として、大気汚染防止法に定める石綿製品製造施設の敷地境界線における基準との比較を行いました。

3 地域における 2 地点 3 日間 (4 時間/日) の個々の測定値の幾何平均値は、表 2.1-21 に示すとおりです。

全地点で、大気汚染防止法に定める石綿製品製造施設の敷地境界線における基準値 (10 本/L) の 1/10 未満であり、世界保健機構 (WHO) の環境保健クライテリア 53 (1986 年) ※ と比較しても低い値となっています。

※：石綿及びその他の鉱物繊維においては、世界の都市部の一般環境中の石綿濃度は 1 本～10 本/リットル程度であり、この程度であれば健康リスクは検出できないほど低い。

表 2.1-21 一般環境大気中のアスベスト測定結果 (平成 21 年度 幾何平均値)

地 域	地域分類	アスベスト (本/L)
中央区天神①	商業地域	0.24
中央区天神②	商業地域	0.13
博多区吉塚①	準工業地域	0.12
博多区吉塚②	準工業地域	0.15
博多区千代①	幹線道路沿線地域	0.13
博多区千代②	幹線道路沿線地域	0.07
石綿製品製造施設の敷地境界線における基準値 (参考)		10

出典：「福岡市大気測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」
(平成23年2月、福岡市)

2.1.2 水環境

ア. 水 象

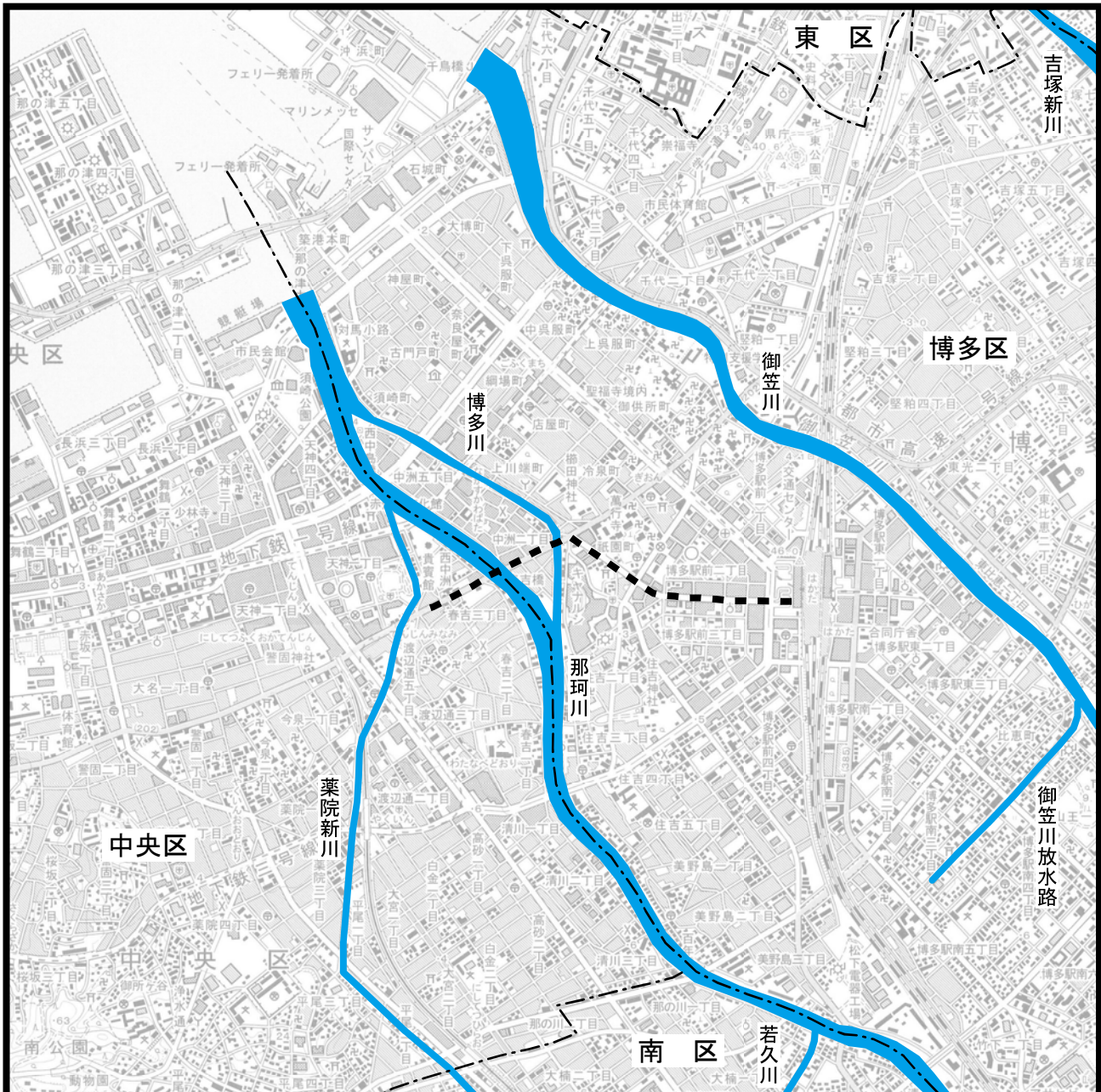
対象事業実施区域及びその周辺には、図 2.1-12 に示すとおり、福岡市早良区の脊振山に源を発し、福岡市の中心街を貫流し、博多湾に注ぐ那珂川が流れています。なお、那珂川は、キャナルシティ博多近くで分流し（博多川と分流）、須崎公園手前で再び合流しています。また、対象事業実施区域東側に御笠川が流れています。

主な河川の概要は、表 2.1-22 に示すとおりです。

表 2.1-22 主な河川の概要

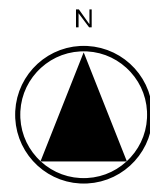
水系名	河川名	指 定	河川総延長 (m)	市内延長 (m)	流域面積 (km ²)
多々良川	吉塚新川	二級河川	2,400	2,400	4.3
御笠川	御笠川	二級河川	24,150	8,100	94.0
	御笠川放水路	二級河川	1,830	1,830	—
那珂川	那珂川	二級河川	35,130	10,900	124.0
	薬院新川	二級河川	720	720	5.5
	若久川	二級河川	2,430	2,430	6.7

出典：「福岡市地域防災計画（資料編）」（平成21年6月、福岡市防災会議）

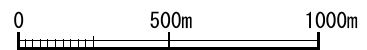


凡 例

- 対象事業実施区域
- 河 川



1 : 25,000



出典：「福岡県土整備事務所管内図」
 (福岡県福岡県土整備事務所、平成 22 年 3 月)

図2.1-12 主要な河川図

イ. 水 質

(7) 一般項目等

対象事業実施区域及びその周辺の河川の水質については、表 2.1-23 及び図 2.1-13 に示すとおり、5 地点で測定を行っています。

また、過去 5 ヶ年の BOD (75%値) の経年変化は、表 2.1-24 に示すとおりです。

平成 21 年度の測定結果は、表 2.1-25～表 2.1-27 に示すとおりであり、3 地点でほう素が環境基準を超えていますが、他はすべての項目で環境基準を達成しています。

表 2.1-23 公共用水域水質調査地点

地点番号	河川名	測定地点	概 要	水域類型※
1	御笠川	千鳥橋	河川環境基準点	D
2	那珂川	那の津大橋	河川環境基準点	C
3	那珂川	住吉橋	河川環境基準点	B
4	薬院新川	天神橋	河川補助地点	—
5	若久川	天代橋	河川補助地点	—

※水質汚濁に係る環境基準のうち、BOD等の生活環境の保全に関する環境基準については利水目的に応じた水域を区切ってAA, A, B, C, D, Eの6つの類型があり詳細は表2.2-25(1) (p.99参照) に示します。

出典：「福岡市水質測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」
(福岡市、平成23年2月)

表 2.1-24 BOD (75%値) の経年変化

地点番号	河川名	測定地点	環境基準値	BOD 75%値 (mg/L)				
				17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
1	御笠川	千鳥橋	8mg/L 以下	1.9	1.5	1.3	1.2	1.4
2	那珂川	那の津大橋	5mg/L 以下	1.1	0.9	1.5	1.0	1.3
3	那珂川	住吉橋	3mg/L 以下	0.9	0.9	1.1	1.0	0.9
4	薬院新川	天神橋	—	2.0	1.1	1.4	1.4	1.6
5	若久川	天代橋	—	1.4	2.0	1.3	0.9	1.4

出典：「福岡市水質測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」(福岡市、平成23年2月)

表 2.1-25 公共用水域水質測定結果（平成 21 年度：生活環境項目）

地点番号	河川名	測定地点	類型	水素イオン濃度 [pH]		生物化学的酸素要求量 [BOD] (mg/L)		化学的酸素要求量 [COD] (mg/L)	
				年平均値	環境基準	年平均値	環境基準	年平均値	環境基準
1	御笠川	千鳥橋	D	7.4	6.0 以上 8.5 以下	1.2	8mg/L 以下	5.7	—
2	那珂川	那の津大橋	C	7.5	6.5 以上 8.5 以下	1.1	5mg/L 以下	3.2	—
3	那珂川	住吉橋	B	7.5	6.5 以上 8.5 以下	0.8	3mg/L 以下	3.8	—
4	薬院新川	天神橋	—	7.9	—	1.7	—	3.6	—
5	若久川	天代橋	—	7.6	—	1.3	—	4.7	—

地点番号	河川名	測定地点	類型	浮遊物質質量 [SS] (mg/L)		溶存酸素量 [DO] (mg/L)		大腸菌群数 [MPN] (MPN/100mL)	
				年平均値	環境基準	年平均値	環境基準	年平均値	環境基準
1	御笠川	千鳥橋	D	3	100mg/L 以下	7.7	2mg/L 以上	8,600	—
2	那珂川	那の津大橋	C	6	50mg/L 以下	7.4	5mg/L 以上	1,400	—
3	那珂川	住吉橋	B	6	25mg/L 以下	8.4	5mg/L 以上	4,300	5,000MPN /100mL 以下
4	薬院新川	天神橋	—	2	—	9.3	—	840	—
5	若久川	天代橋	—	6	—	8.0	—	18,000	—

地点番号	河川名	測定地点	全窒素 [T-N] (mg/L)		全りん [T-P] (mg/L)		全亜鉛 [T-Zn] (mg/L)	
			年平均値	環境基準	年平均値	環境基準	年平均値	環境基準
1	御笠川	千鳥橋	5.4	—	0.52	—	0.021	—
2	那珂川	那の津大橋	1.3	—	0.10	—	0.009	—
3	那珂川	住吉橋	2.6	—	0.17	—	0.015	—
4	薬院新川	天神橋	0.79	—	0.063	—	0.011	—
5	若久川	天代橋	1.8	—	0.11	—	0.016	—

出典：「福岡市水質測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（福岡市、平成23年2月）

表 2.1-26 公共用水域水質測定結果（平成 21 年度：健康項目）

番号	河川名	測定地点	カドミウム (mg/L)	全シアン (mg/L)	鉛 (mg/L)	六価クロム (mg/L)	ひ素 (mg/L)	総水銀 (mg/L)
1	御笠川	千鳥橋	<0.001	ND	<0.001	<0.005	<0.001	<0.0005
2	那珂川	那の津大橋	—	—	—	—	<0.001	—
3	那珂川	住吉橋	—	—	—	—	<0.001	—
4	薬院新川	天神橋	—	—	—	—	<0.001	—
5	若久川	天代橋	—	—	—	—	<0.001	—
環境基準			0.01 以下	検出され ないこと	0.01 以下	0.05 以下	0.01 以下	0.0005 以下

番号	河川名	測定地点	アルキル 水銀 (mg/L)	PCB (mg/L)	ジクロロ メタン (mg/L)	四塩化炭素 (mg/L)	1,2-ジクロロ エタン (mg/L)	1,1-ジクロロ エチレン (mg/L)
1	御笠川	千鳥橋	ND	ND	<0.002	<0.0002	<0.0004	<0.001
2	那珂川	那の津大橋	—	—	<0.002	<0.0002	<0.0004	<0.001
3	那珂川	住吉橋	—	—	<0.002	<0.0002	<0.0004	<0.001
4	薬院新川	天神橋	—	—	<0.002	<0.0002	<0.0004	<0.001
5	若久川	天代橋	—	—	<0.002	<0.0002	<0.0004	<0.001
環境基準			検出され ないこと	検出され ないこと	0.02 以下	0.002 以下	0.004 以下	0.1 以下

番号	河川名	測定地点	シス-1,2- ジクロロ エチレン (mg/L)	1,1,1- トリクロロ エタン (mg/L)	1,1,2- トリクロロ エタン (mg/L)	トリクロロ エチレン (mg/L)	テトラクロロ エチレン (mg/L)	1,3-ジクロロ プロペン (mg/L)
1	御笠川	千鳥橋	<0.001	<0.001	<0.0006	<0.001	<0.001	<0.0001
2	那珂川	那の津大橋	<0.001	<0.001	<0.0006	<0.001	<0.001	<0.0001
3	那珂川	住吉橋	<0.001	<0.001	<0.0006	<0.001	<0.001	<0.0001
4	薬院新川	天神橋	<0.001	<0.001	<0.0006	<0.001	<0.001	<0.0001
5	若久川	天代橋	<0.001	<0.001	<0.0006	<0.001	<0.001	<0.0001
環境基準			0.04 以下	1 以下	0.006 以下	0.03 以下	0.01 以下	0.002 以下

番号	河川名	測定場所	チウラム (mg/L)	シマジン (mg/L)	チオベン カルブ (mg/L)	ベンゼン (mg/L)	セレン (mg/L)	硝酸性窒素 および 亜硝酸性窒素 (mg/L)
1	御笠川	千鳥橋	<0.0006	<0.0003	<0.002	<0.001	<0.002	3.3
2	那珂川	那の津大橋	—	—	—	—	—	0.88
3	那珂川	住吉橋	—	—	—	—	—	2.4
4	薬院新川	天神橋	—	—	—	—	—	0.21
5	若久川	天代橋	—	—	—	—	—	1.2
環境基準			0.006 以下	0.003 以下	0.02 以下	0.01 以下	0.01 以下	10 以下

番号	河川名	測定地点	ふっ素 (mg/L)	ほう素 (mg/L)
1	御笠川	千鳥橋	0.20	1.6
2	那珂川	那の津大橋	0.36	2.4
3	那珂川	住吉橋	0.21	0.95
4	薬院新川	天神橋	0.51	3.5
5	若久川	天代橋	0.09	0.44
環境基準			0.8 以下	1 以下

出典：「福岡市水質測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（福岡市、平成23年2月）

表 2.1-27 公共用水域水質測定結果（平成 21 年度：その他の項目）

地点番号	河川名	測定地点	硝酸性窒素 (mg/L)		亜硝酸性窒素 (mg/L)		塩化物イオン (mg/L)		MBAS (mg/L)	
			平均値	環境基準	平均値	環境基準	平均値	環境基準	平均値	環境基準
1	御笠川	千鳥橋	3.3	—	0.020	—	4900	—	0.06	—
2	那珂川	那の津大橋	0.88	—	0.013	—	8900	—	0.12	—
3	那珂川	住吉橋	2.4	—	0.011	—	3200	—	<0.05	—
4	薬院新川	天神橋	0.20	—	0.011	—	10000	—	0.08	—
5	若久川	天代橋	1.2	—	0.012	—	820	—	<0.05	—

出典：「福岡市水質測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（福岡市、平成23年2月）

(イ) ダイオキシン類

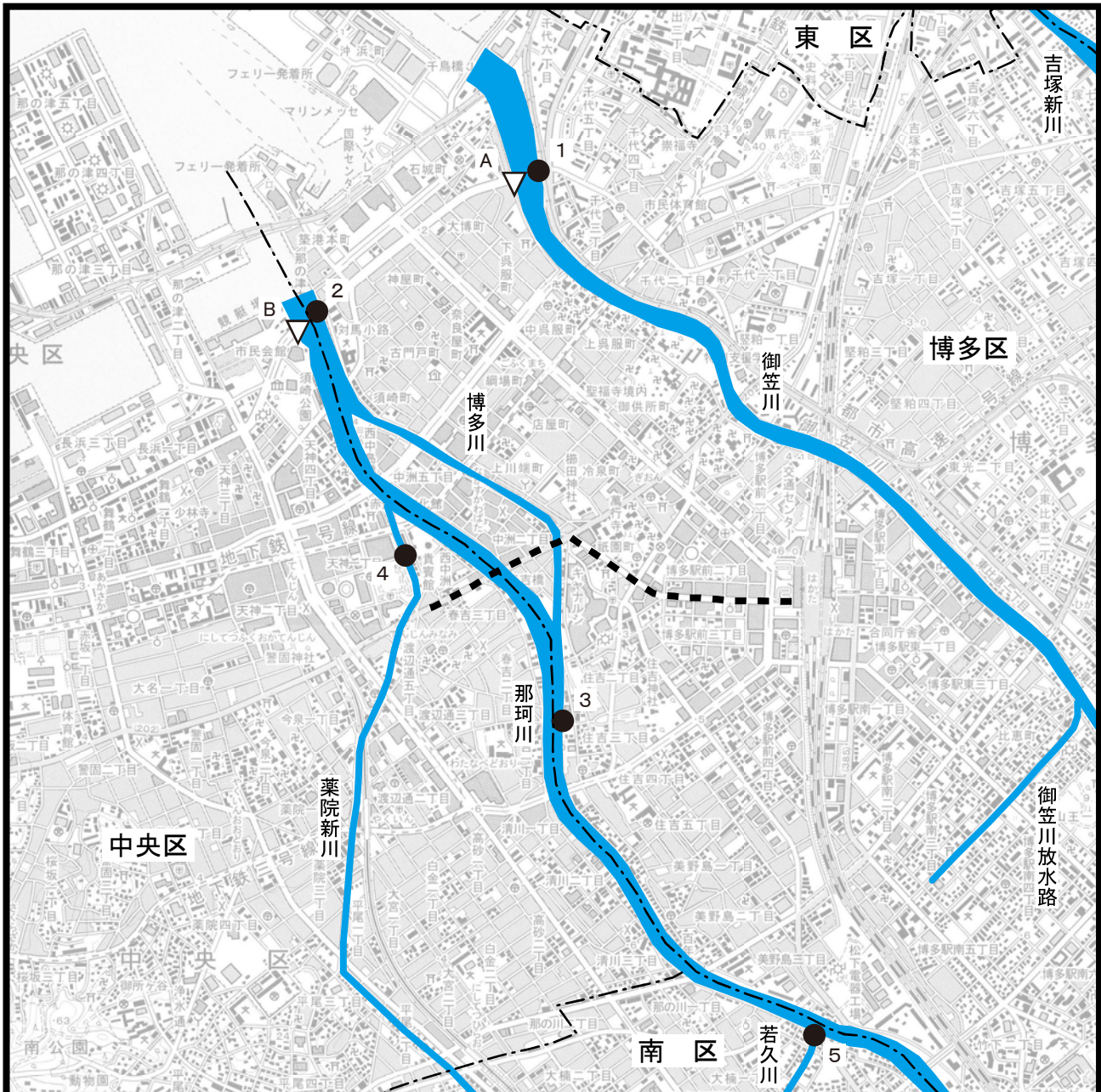
対象事業実施区域及びその周辺の河川の水質について、図 2.1-13 に示すとおり、2 地点でダイオキシン類の調査を行っています。

平成 21 年度のダイオキシン類の測定結果は、表 2.1-28 に示すとおりであり、2 地点とも環境基準を達成しています。

表 2.1-28 ダイオキシン類測定結果（平成 21 年度：河川の水質）

地点番号	河川名	測定地点	年平均値 (pg-TEQ/L)	環境基準 (pg-TEQ/L)
A	御笠川	千鳥橋	0.10	1 以下
B	那珂川	那の津大橋	0.12	

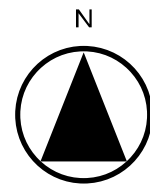
出典：「福岡市水質測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（福岡市、平成23年2月）



凡 例

- 対象事業実施区域
- 河川水質測定地点（一般項目等）
- ▽ 河川水質測定地点（ダイオキシン類）

出典：「福岡市水質測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」
（福岡市、平成23年2月）



1 : 25,000

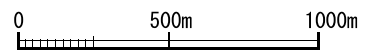


図2.1-13 河川の水質測定地点

ウ. 水底の底質

(7) 一般項目等

対象事業実施区域及びその周辺の河川の底質については、図 2.1-14 に示すとおり、3 地点で測定を行っています。

平成 21 年度の測定結果は表 2.1-29 に示すとおりであり、底質の暫定除去基準値は、総水銀及び PCB で定められていますが、御笠川及び那珂川における河川底質の総水銀及び PCB はいずれも記録できないほど少ない量であり、底質の暫定除去基準値を下回っています。

表 2.1-29 河川底質測定結果（平成 21 年度）

地点番号	1	2	3	底質の暫定 除去基準値
河川名	御笠川	那珂川	那珂川	
測定地点	千鳥橋	那の津大橋	住吉橋	
pH	7.8	7.6	7.5	—
COD (mg/g)	1.2	13	<0.5	—
乾燥減量 (%)	18	30	19	—
強熱減量 (%)	0.6	3.0	0.5	—
硫化物 (mg/kg)	30	120	9	—
有機炭素 (mg/g)	1.2	6.9	0.8	—
全窒素 (mg/kg)	300	400	60	—
全りん (mg/kg)	<10	550	<10	—
カドミウム (mg/kg)	0.06	0.44	<0.05	—
シアン (mg/kg)	<1	<1	<1	—
有機りん (mg/kg)	<1	<1	<1	—
鉛 (mg/kg)	3.4	6.0	1.4	—
総クロム (mg/kg)	3	10	<2	—
六価クロム (mg/kg)	<2	<2	<2	—
ひ素 (mg/kg)	1.0	2.4	<0.5	—
総水銀 (mg/kg)	0.07	0.09	<0.01	25ppm 以上
アルキル水銀 (mg/kg)	<0.01	<0.01	<0.01	—
PCB (mg/kg)	<0.01	<0.01	<0.01	10ppm 以上

出典：「福岡市水質測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（福岡市、平成23年2月）

(イ) ダイオキシン類

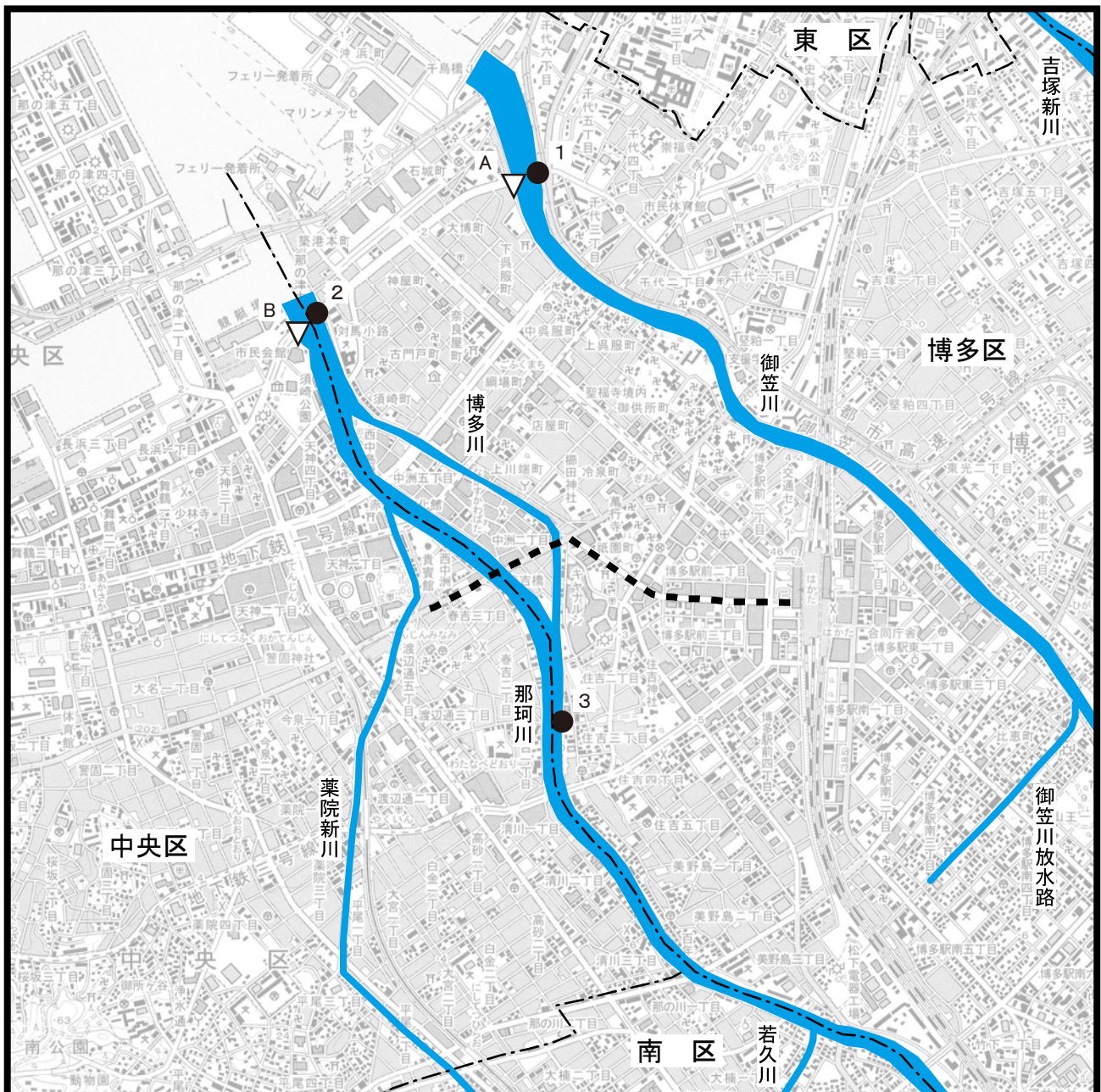
対象事業実施区域及びその周辺の河川の底質について、図 2.1-14 に示すとおり、2 地点でダイオキシン類の調査を行っています。

平成 21 年度のダイオキシン類の測定結果は、表 2.1-30 に示すとおりであり、2 地点とも環境基準を達成しています。

表 2.1-30 ダイオキシン類測定結果（平成 21 年度：河川の底質）

地点番号	河川名	測定地点	測定結果 (調査月：8月) (pg-TEQ/g)	環境基準 (pg-TEQ/g)
A	御笠川	千鳥橋	0.97	150 以下
B	那珂川	那の津大橋	1.6	

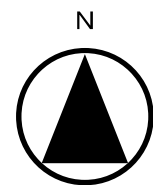
出典：「福岡市水質測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（福岡市、平成23年2月）



凡 例

- 対象事業実施区域
- 河川底質測定地点（一般項目等）
- ▽ 河川底質測定地点（ダイオキシン類）

出典：「福岡市水質測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」
（福岡市、平成23年2月）



1 : 25,000

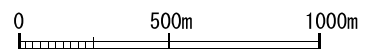


図2.1-14 河川の底質測定地点

エ. 地下水

(ア) 一般項目等

対象事業実施区域及びその周辺の地下水の水質について、図 2.1-15 に示す 3 地点において、地下水の水質調査（概況調査）が行われています。

また、過去に汚染が確認された 2 地点については、継続監視調査が行われています。

平成 21 年度の測定結果は表 2.1-31 に示すとおりであり、調査地点 2 で硝酸・亜硝酸性窒素が環境基準超過していますが、その他については環境基準を達成しています。

表 2.1-31 地下水水質測定結果（平成 21 年度）

調査項目		調査地点					環境基準値
		概況調査			継続監視調査		
		1	2	3	4	5	
		博多区 下呉服町	博多区 堅粕	博多区 石城町	博多駅南 ①	博多駅南 ②	
カドミウム	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	—	—	0.01mg/L 以下
全シアン	mg/L	ND	ND	ND	—	—	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	—	—	0.01mg/L 以下
六価クロム	mg/L	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/L 以下
ひ素	mg/L	0.003	0.003	0.001	—	—	0.01mg/L 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	—	—	0.0005mg/L 以下
アルキル水銀	mg/L	ND	ND	ND	—	—	検出されないこと
PCB	mg/L	ND	ND	ND	—	—	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	—	—	0.02mg/L 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	—	—	0.002mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0001	<0.0001	<0.0001	—	—	0.004mg/L 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.0001	<0.0001	<0.0001	—	—	0.02mg/L 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.0001	<0.0001	0.0001	—	—	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	<0.0005	<0.0005	—	—	1mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0001	<0.0001	<0.0001	—	—	0.006mg/L 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.002	<0.002	<0.002	—	—	0.03mg/L 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	0.0014	—	—	0.01mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	<0.0002	—	—	0.002mg/L 以下
チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	<0.0006	—	—	0.006mg/L 以下
シマジン	mg/L	<0.0001	<0.0001	<0.0001	—	—	0.003mg/L 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.0001	<0.0001	<0.0001	—	—	0.02mg/L 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	—	—	0.01mg/L 以下
セレン	mg/L	<0.001	<0.001	<0.001	—	—	0.01mg/L 以下
亜硝酸性窒素	mg/L	<0.005	<0.005	0.072	—	—	—
硝酸性窒素	mg/L	8.3	12	0.20	—	—	—
硝酸・亜硝酸性窒素	mg/L	8.3	12	0.27	—	—	10mg/L 以下
ふっ素	mg/L	<0.1	<0.1	<0.1	—	—	0.8mg/L 以下
ほう素	mg/L	0.17	0.08	0.21	—	—	1mg/L 以下
トランス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.0001	<0.0001	<0.0001	—	—	(0.04mg/L 以下)

注 1) トランス-1,2-ジクロロエチレンは、要監視項目指針値である。

注 2) ND：検出されなかったことを示す。

出典：「福岡市水質測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（福岡市、平成23年2月）

(イ) ダイオキシン類

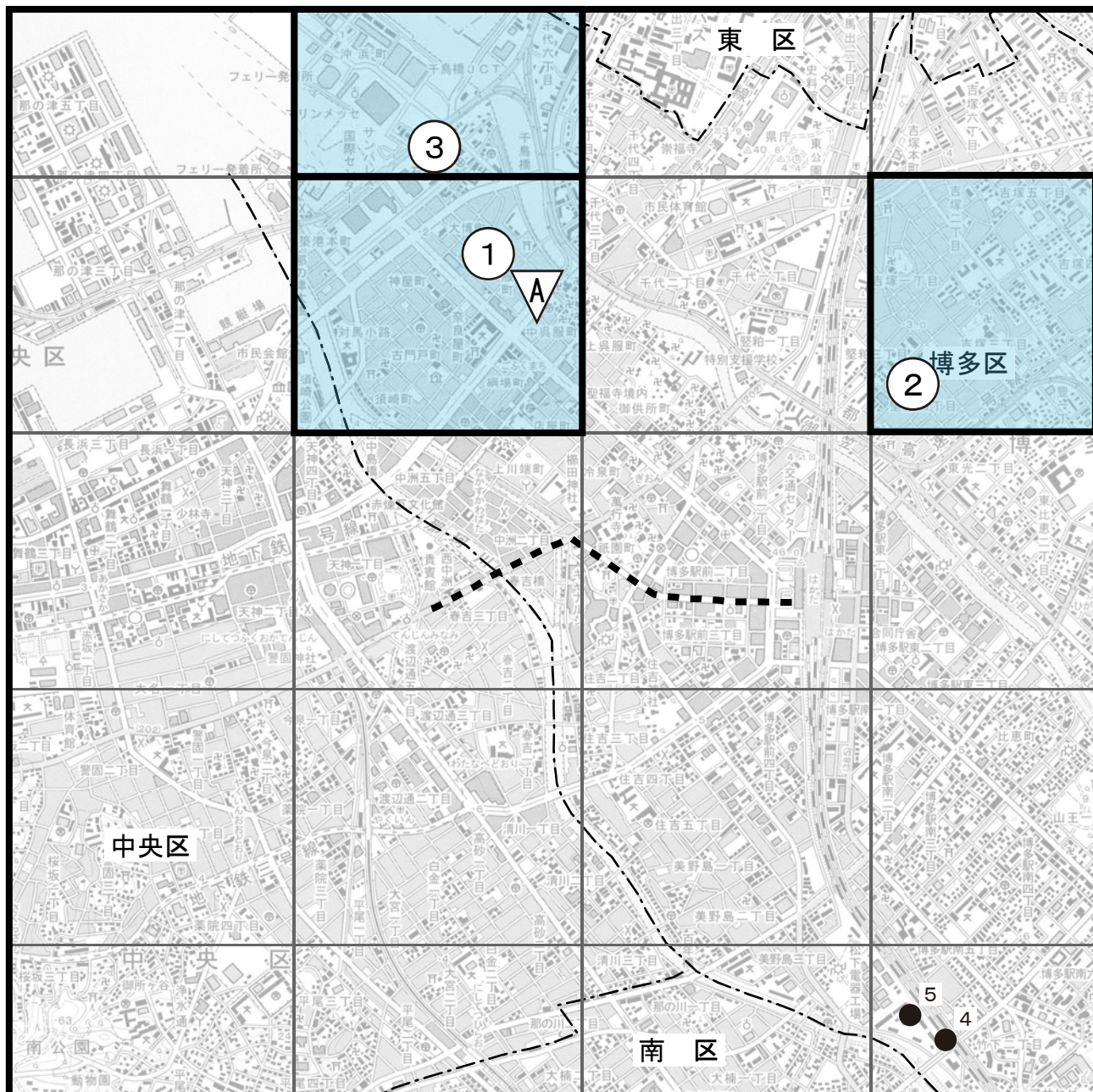
対象事業実施区域及びその周辺の地下水の水質について、**図 2.1-15** に示すとおり、1 地点でダイオキシン類の調査を行っています。

平成 21 年度のダイオキシン類の測定結果は、**表 2.1-32** に示すとおりであり、環境基準を達成しています。

表 2.1-32 ダイオキシン類測定結果（平成 21 年度：地下水）

地点番号	測定地点	測定結果 (調査月：9月) (pg-TEQ/L)	環境基準 (pg-TEQ/L)
A	博多区下呉服町	0.067	1

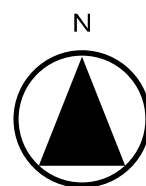
出典：「福岡市水質測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（福岡市、平成23年2月）



凡例

- 対象事業実施区域
- 地下水水質測定地点（概況調査）
※メッシュで示す。
- 地下水水質測定地点（継続監視調査）
- ▽ 地下水水質測定地点（ダイオキシン類）

出典：「福岡市水質測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」
（福岡市、平成23年2月）



1 : 25,000

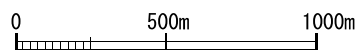


図2.1-15 地下水の水質測定地点

2.1.3 土壌環境、その他の環境

ア. 地形、地質、土壌、地盤の状況

(7) 地形

対象事業実施区域及びその周辺の地形分類図を図 2.1-16 に示します。

また、対象事業実施区域及びその周辺における明治 33 年及び平成 7 年の地形図は図 2.1-17 に示すとおりです。

福岡市の地形は、大局的には南の背振山地から北の博多湾に向かって地形の傾斜が緩くなり、山側から順に山地部、丘陵部、台地部、低地部、人工的な埋立地が分布します。

対象事業実施区域は、福岡平野の中央付近に位置しており、北側は、博多湾沿いに広がる海浜砂丘・砂浜や、都市化による埋立地などの人工地形が広がっており、南側は、脊振山地及び三郡山地から発する那珂川、御笠川等の下流部に形成された博多湾沿いの沖積平野が分布しています。

博多湾の埋立ては 12 世紀に平清盛が日宋貿易の拠点として建設した袖の港が初めてです。江戸時代になると、福岡城下建設のため臨海部で造成が行われ、那珂川を境に町人の町博多と武士の町福岡がつくられました。そして、明治 32 年には博多港が開港指定を受け、港の建設が急務となり埋立てが進められました。昭和 20 年以降も戦災復興と貿易量の増大に伴い、ふ頭整備と用地確保のため多くの埋立てが進められ、現在は人工島（アイランドシティ）の埋立てもほぼ完了しています。【出典①】

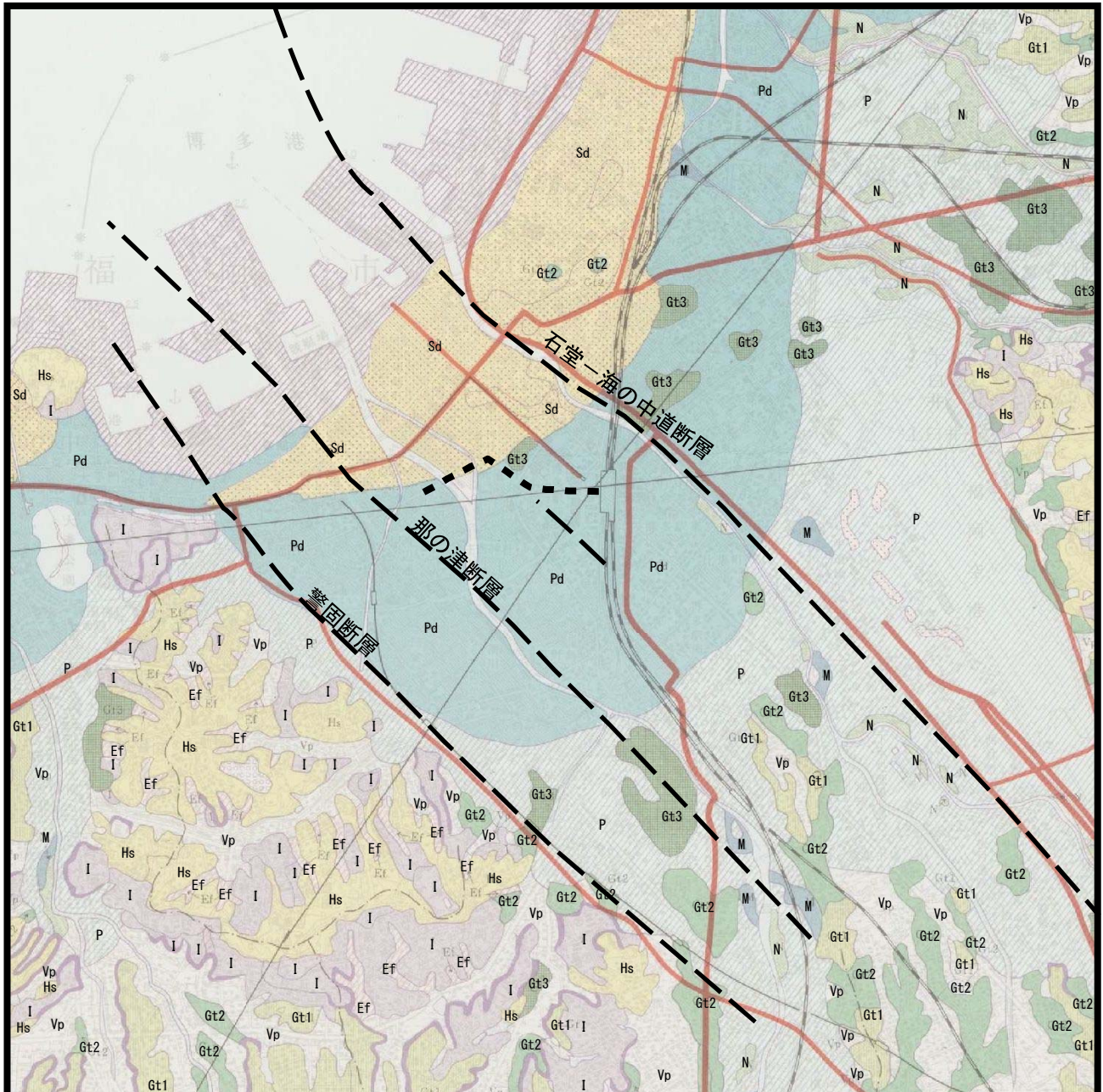
福岡平野は、背振山地の北東部から博多湾にかけて広がる平坦面です。これらは、背振山地に端を発して北流する室見川や那珂川、並びに背振山地と三郡山地との間を北西流する御笠川といった河川により、山地・丘陵・台地間の谷底平野を伴って形成されたものです。河川はいずれも博多湾に注ぎ、下流部には博多湾に沿った複合デルタ（三角州）が形成されています。【出典②】

福岡平野には、鴻巣山丘陵や博多湾沿岸丘陵に代表される残丘状の丘陵地が点在します。これらは、かつて博多湾上に島状で点在していたものが上述の河川によって形成されたデルタの発達と共に陸繁されたものと考えられます。【出典②】

福岡平野の地下には、北西－南東方向の複数の断層が認められています。対象事業実施区域の南側においても、那の津断層と石堂－海の中道断層に挟まれた断層が確認されています。【出典②】

出典①：「全国電子地盤図 ホームページ」（社団法人 地盤工学会）

出典②：「福岡地盤図」（九州地質調査業協会 1981.10）



凡例

----- 対象事業実施区域

【丘陵地】

Hs 丘陵地Ⅱ
(起伏量 100m 以下)

【台地】

Gt1 砂礫台地Ⅰ
(中～高位段丘)
Gt2 砂礫台地Ⅱ
(低位段丘)
Gt3 砂礫台地Ⅲ
(低位段丘)

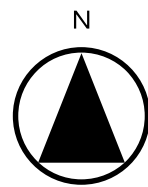
【低地】

Ef 土石流堆積面
Vp 谷底平野
P 平野(扇状地)
Pd 平野(三角州)
N 自然堤防
Sd 海浜砂丘、砂浜
-- 断層

【その他】

池、河川
I 人工改変地
(宅地碎石)
埋立地
崖面
国道
主要地方道
地形界

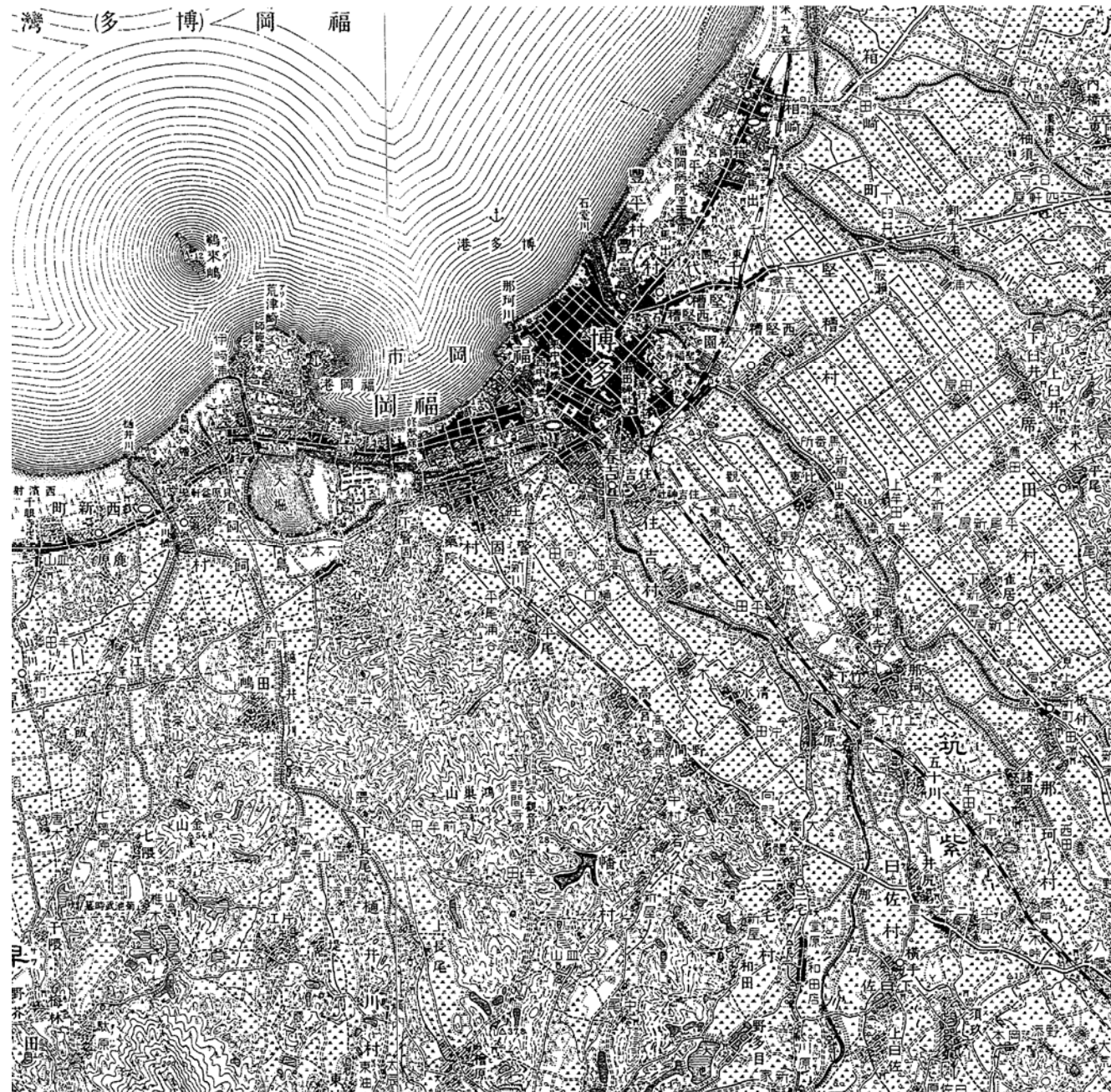
出典：「土地分類基本調査 地形分類図 福岡」(昭和 59 年 3 月 福岡県)
断層については「福岡地域の地質」(唐木田ほか)を参考とした。



1 : 50,000

0 1000m 2000m

図 2.1-16 地形分類図



1900年（明治33年）



1995年（平成7年）

出典：「九州地形図で読む百年」（平岡昭利 平成9年）

図 2.1-17 の福岡市 地形図

(4) 地 質

福岡市中心部の表層地質図は図 2.1-18 に示すとおりです。また、福岡平野第四紀層の断面図を図 2.1-19(1)、警固断層と福岡平野第四紀層の断面図を図 2.1-19(2)に示します。

福岡市街地の地質は図 2.1-18 に示すとおり、市街地から博多湾に向かい、順に粘土・シルト及び砂で構成された住吉層、海浜砂及び風成砂で構成された海の中道砂層及び箱崎砂層、埋立地が分布しています。

福岡市街地の地質は一般に砂層であり、大河川の下流域のデルタ上にある他の大都市に比べるとシルト層や粘土層のように細粒で多量の水を含みかつ圧密や揚水による圧密沈下を起こしやすい地層が少ないのが特徴です。【出典①】

砂層は一般に透水性が大きく、かつ水を含みやすいので、これらが良好な透水層となり、昔から福岡平野は浅い地下水の豊富なところとなっています。【出典①】

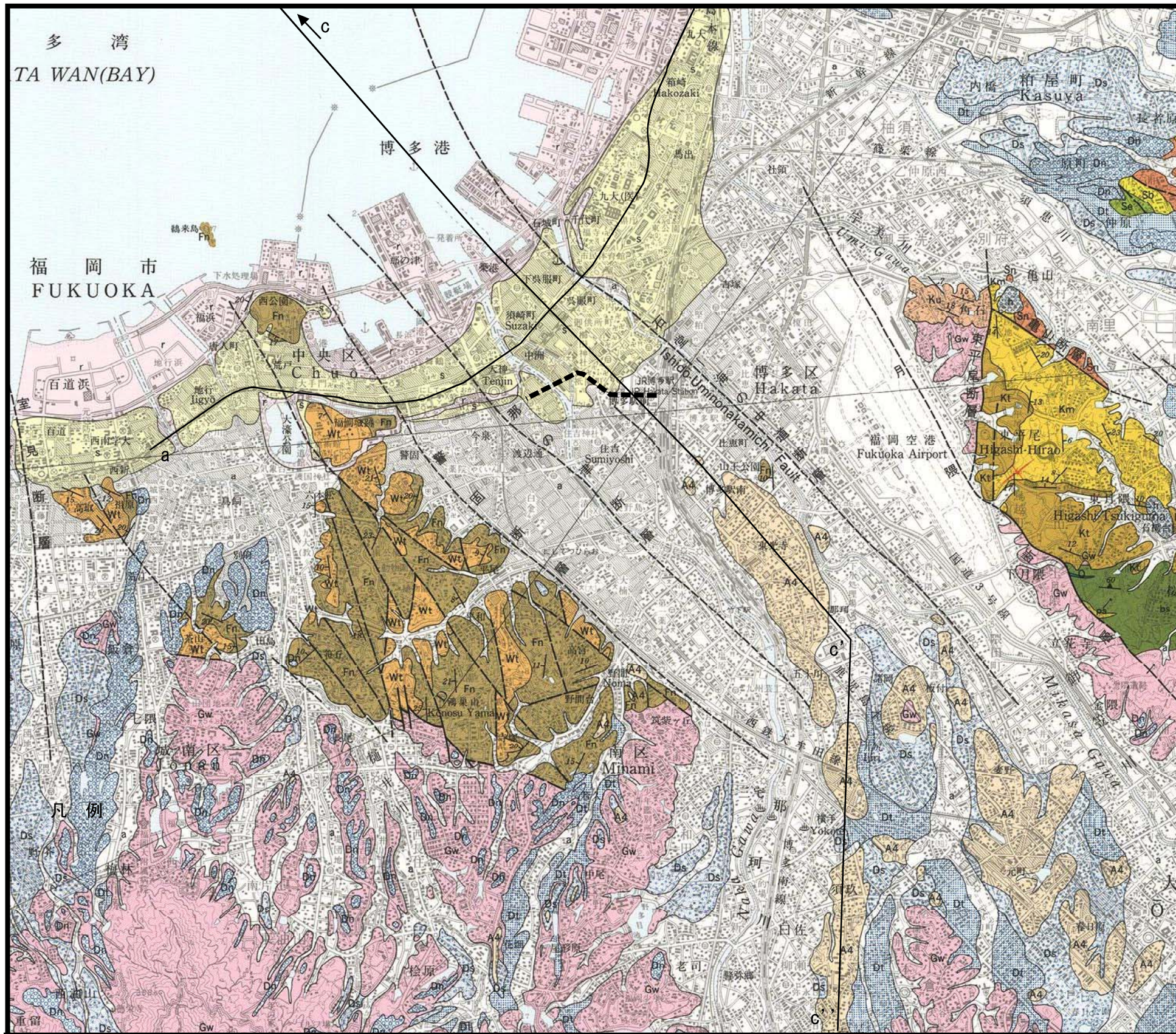
南北方向の断面図は図 2.1-19(1)（断面位置については図 2.1-18 参照）に示すとおりであり、更新世の大坪砂礫層や須崎層を覆って、山側では完新世である住吉層、博多湾付近では完新世である海の中道砂層及び箱崎砂層、博多湾シルト層が分布しています。東西方向の断面図は図 2.1-19(2)（断面位置については図 2.1-18 参照）に示すとおりであり、南北方向と同様の分布となっていますが、活断層である警固断層が確認されています。

対象事業実施区域では、表層は完新世の住吉層、下層は更新世の須崎層が分布しています。

なお、福岡市中心部を通る警固断層は、東側と西側で著しい基盤の深さの違いがあり、その結果としてこの地域に天神凹地と呼ばれる構造的な凹みを形成しています。【出典②】

出典①：「福岡地盤図」（九州地質調査業協会 1981.10）

出典②：「福岡地域の地質」（地域地質研究報告, 唐木田芳文・富田幸臣・下山正一・千々和一豊 1994.3）

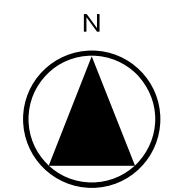


凡例

----- 対象事業実施区域

埋立地	ポタ山	海の中道砂層及び箱崎砂層	住吉層	大坪砂層	阿蘇-4火砕流堆積物	須崎層	仲原層	能古島アルカリ玄武岩と周辺地域の同層岩	能古砂層	姪浜層	愛宕層	浦谷層	須恵層	新原層	名島層	野間層	残島層	宇美層	高田層	白井層	佐賀花崗岩	早良花崗岩	岩脈層	志賀島花崗閃緑岩	北崎トール岩	糸島花崗閃緑岩	志賀島基性岩類	三郡変成岩類				
古代の盛土 (水域及び台土城土壘等)	海浜砂及び風成砂	礫及び砂 (シルトを伴う)	非溶結の軽石質火山灰 (輝石角閃石デイサイト)	礫・砂及び粘土	礫及び砂 (粘土を伴う)	溶岩・岩類及び火砕岩 (アルカリ単斜輝石かんらん石玄武岩及び単斜輝石かんらん石角閃石玄武岩)	砂・礫混じり砂及び凝灰質シルト	含海緑石砂層 (砂質頁岩・礫混じり砂及び泥炭層を伴う)	砂岩及び頁岩 (石灰質シルト層及び砂質シルト層を伴う)	砂岩・砂岩及び砂岩質頁岩互層 (石灰質を伴う)	シルト岩ないし泥岩 (石灰質・砂岩及び頁岩を伴う)	砂岩及び頁岩 (シルト岩を伴う)	砂岩・凝岩及びシルト岩 (凝灰岩及び石灰質を伴う)	礫混じり砂層・砂質頁岩及び凝灰質頁岩 (火山砕屑物を伴う)	砂岩及び凝灰質シルト岩 (凝灰岩及び石灰質を伴う)	砂岩及び砂岩質頁岩互層 (凝岩及び石灰質を伴う)	砂岩及び砂岩質頁岩互層 (角礫岩を伴う)	細粒白雲母黒雲母花崗岩	中-粗粒黒雲母花崗岩	中粒アダメロ岩-花崗閃緑岩	ランプロファイアー	花崗閃緑斑岩	粗粒角閃石黒雲母花崗閃緑岩及びトール岩	中-粗粒単斜輝石含有角閃石黒雲母トール岩 (南西部で葉理構造を示す)	中-粗粒角閃石黒雲母花崗閃緑岩-石英閃緑岩 (葉理構造を示す)	粗粒単斜輝石含有角閃石ないし粗粒単斜輝石角閃石ランプロファイアー及び中-粗粒黒雲母角閃石花崗閃緑岩	角閃石斑れい岩質、角閃石巨晶斑れい岩質及び閃緑岩質凝成岩	変成蛇紋岩	変斑れい岩	結晶質石灰岩 (石灰酸塩質変成岩を伴う)	砂質及び泥質変成岩 (砂質変成岩を伴う)	塩基性変成岩 (石灰酸塩質変成岩を伴う)

出典：「福岡地域の地質」(唐木田ほか 平成6年)



1:50,000

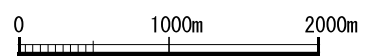


図2.1-18 表層地質図

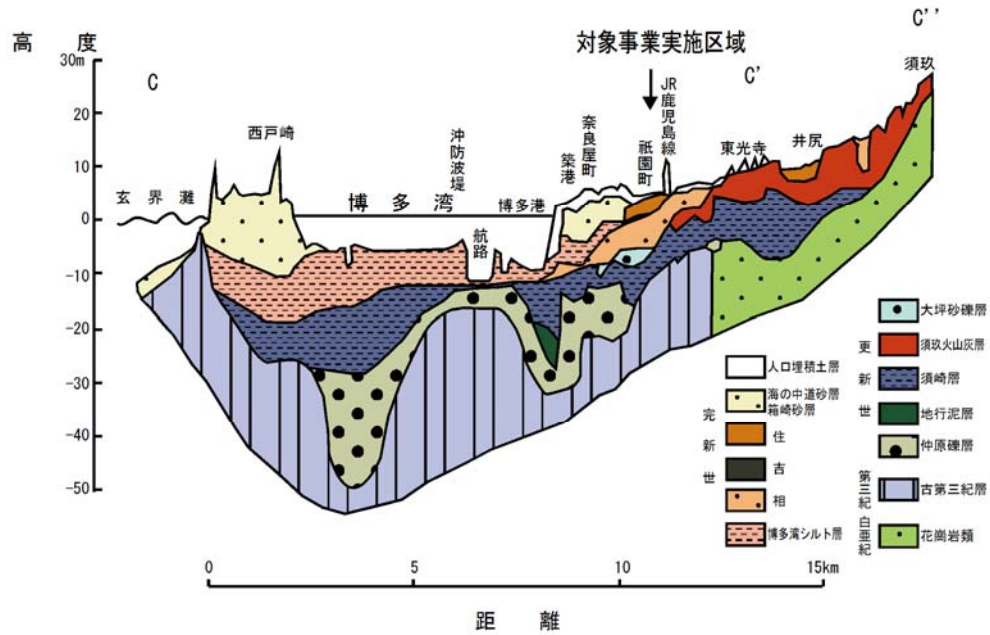


図 2.1-19(1) 福岡平野第四紀層の断面図

出典：「福岡地域の地質（地質調査所）」（唐木田ほか 平成6年）

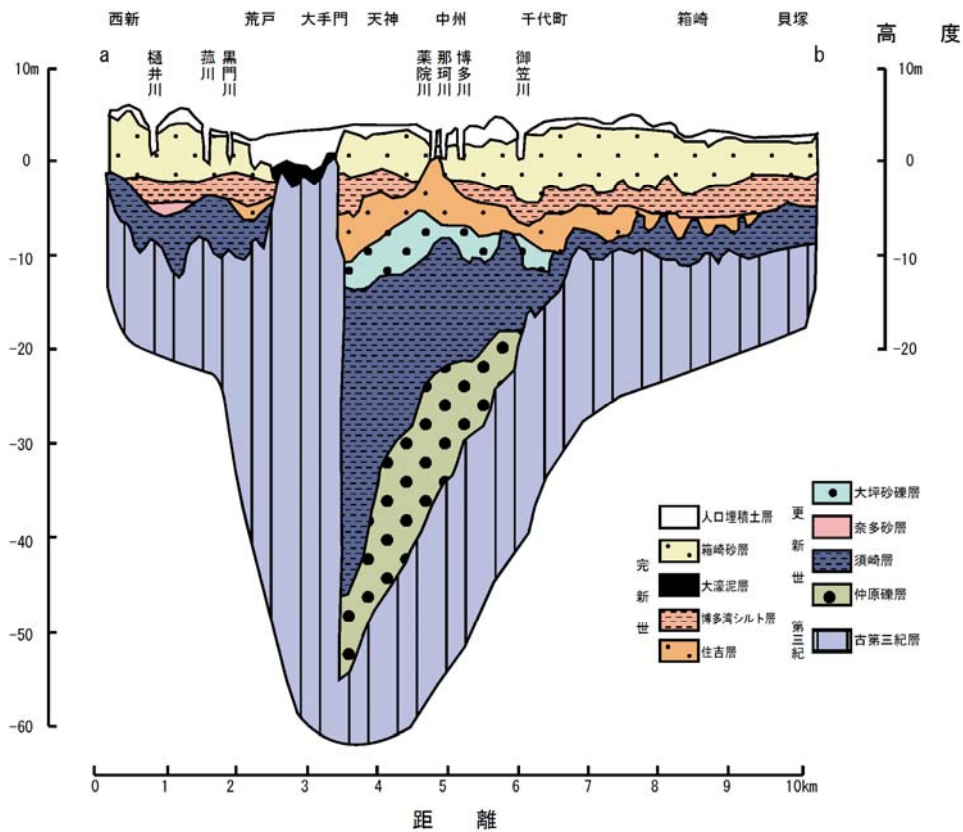


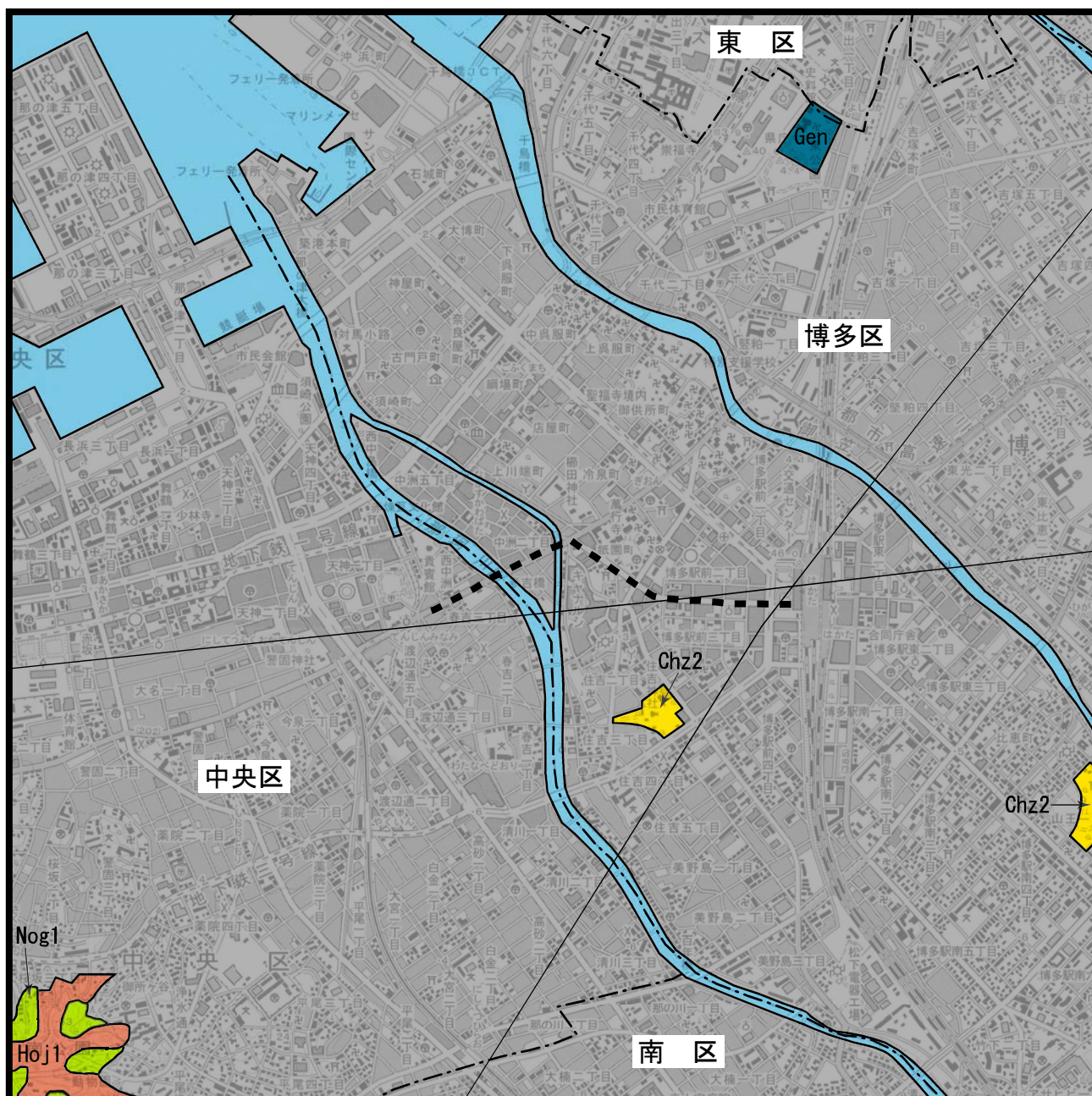
図 2.2-19(2) 警固断層と福岡平野第四紀層の断面図

出典：「福岡地域の地質（地質調査所）」（唐木田ほか 平成6年）

(ウ) 土 壌

対象事業実施区域及びその周辺における土壌図は、**図 2.1-20** に示すとおりです。

対象事業実施区域及びその周辺は、ほとんど市街地・その他となっており、対象事業実施区域の南側約 500m のところには、乾性褐色森林土が分布しています。



凡 例

----- 対象事業実施区域

『山地および丘陵地の土壌』

【乾性褐色森林土・赤色系】

Hoj 1 方城 1 統

【乾性褐色森林土】

Chz 2 筑前 2 統

【褐色森林土・黄褐色系】

Nog 1 直方 1 統

『台地及び低地の土壌』

【砂丘未熟土壌】

Gen 玄海統

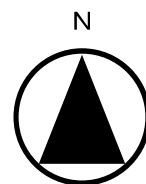
【その他】

市街地その他

池、水面

土壌統の界線

出典：「土地分類基本調査 土壌図 福岡」（福岡県、昭和 59 年 3 月）



1 : 25,000

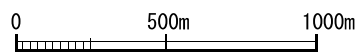


図2.1-20 土 壤 図

(I) 土壌汚染

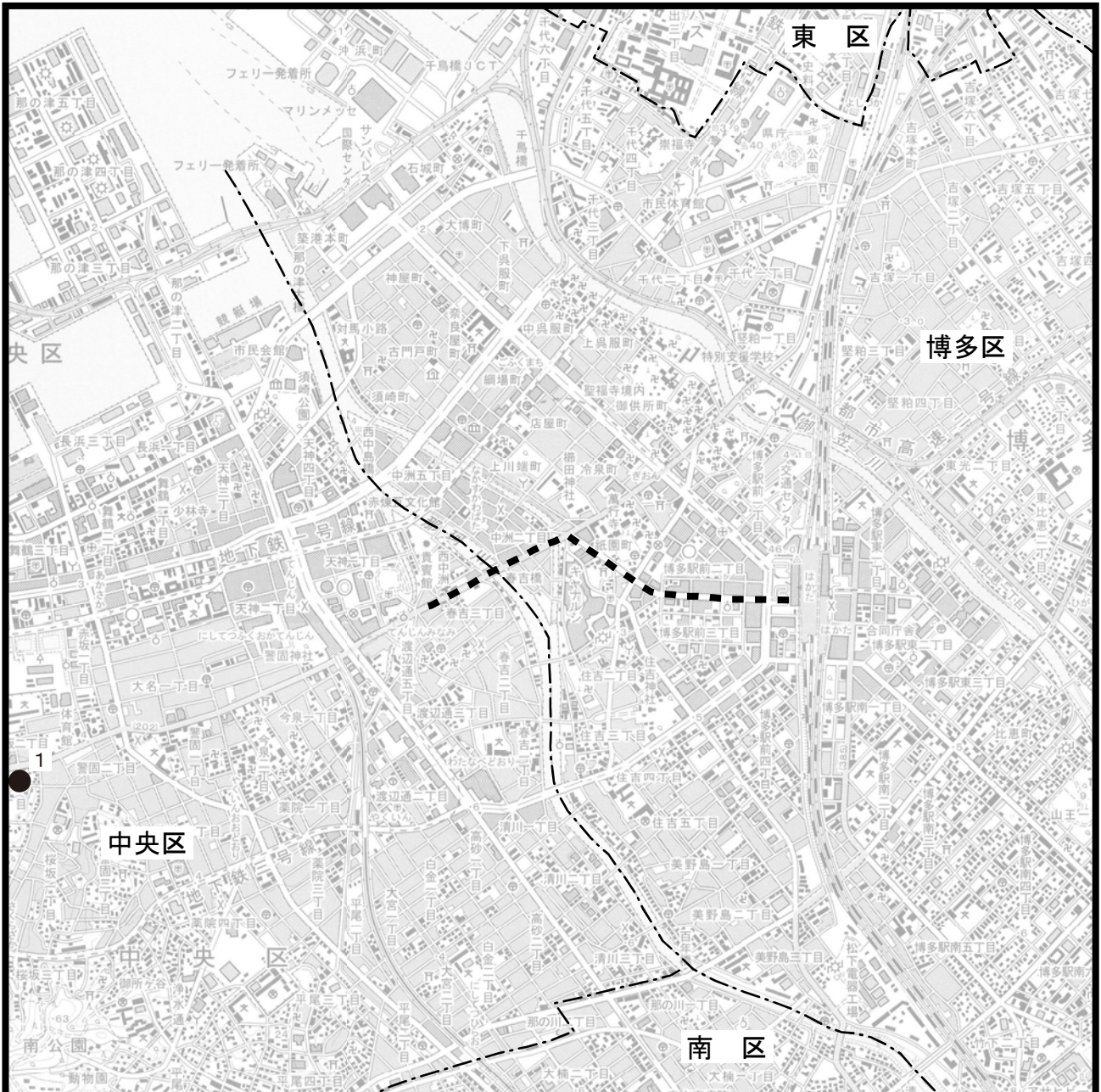
対象事業実施区域及びその周辺の土壌汚染について、図 2.1-21 に示すとおり、1 地点でダイオキシン類の調査を行っています。

平成 21 年度のダイオキシン類の測定結果は、表 2.1-33 に示すとおりであり、環境基準を達成しています。

表 2.1-33 ダイオキシン類測定結果（平成 21 年度：土壌）

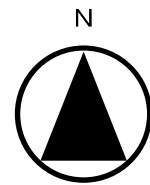
図中 番号	測定地点		測定結果	環境基準
			(調査月：5 月) (pg-TEQ/g)	(pg-TEQ/g)
1	中央区赤坂 3 丁目	赤坂公園	0.023	1,000

出典：「福岡市水質測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」（福岡市、平成23年2月）

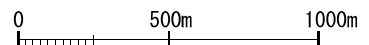


凡例

- 対象事業実施区域
- ダイオキシン類観測地点



1 : 25,000



出典：「福岡市水質測定結果報告書 平成21年度（2009年度）版」
 （平成23年2月 福岡市）

図2.1-21 土壌のダイオキシン類測定地点

イ. その他の環境

(ア) 日影

対象事業実施区域及びその周辺の地形は、ほぼ平坦であり、日影に影響する地形は特に見られませんが、商業地域であるため中高層ビルが立ち並んでいます。

なお、商業地域については、「福岡市建築基準法施行条例」（平成 19 年 3 月 15 日 福岡市条例第 29 号）に中高層の建築物の高さ制限がありますが、日影の規制は定められていません。

(イ) 電波障害

対象事業実施区域及びその周辺の地形は、ほぼ平坦であり、電波障害に影響する地形は特に見られませんが、商業地域であるため中高層ビルが立ち並んでいます。

(ウ) 風環境

対象事業実施区域及びその周辺の地形は、ほぼ平坦であり、風害に影響する地形は特に見られませんが、商業地域であるため中高層ビルが立ち並んでいます。

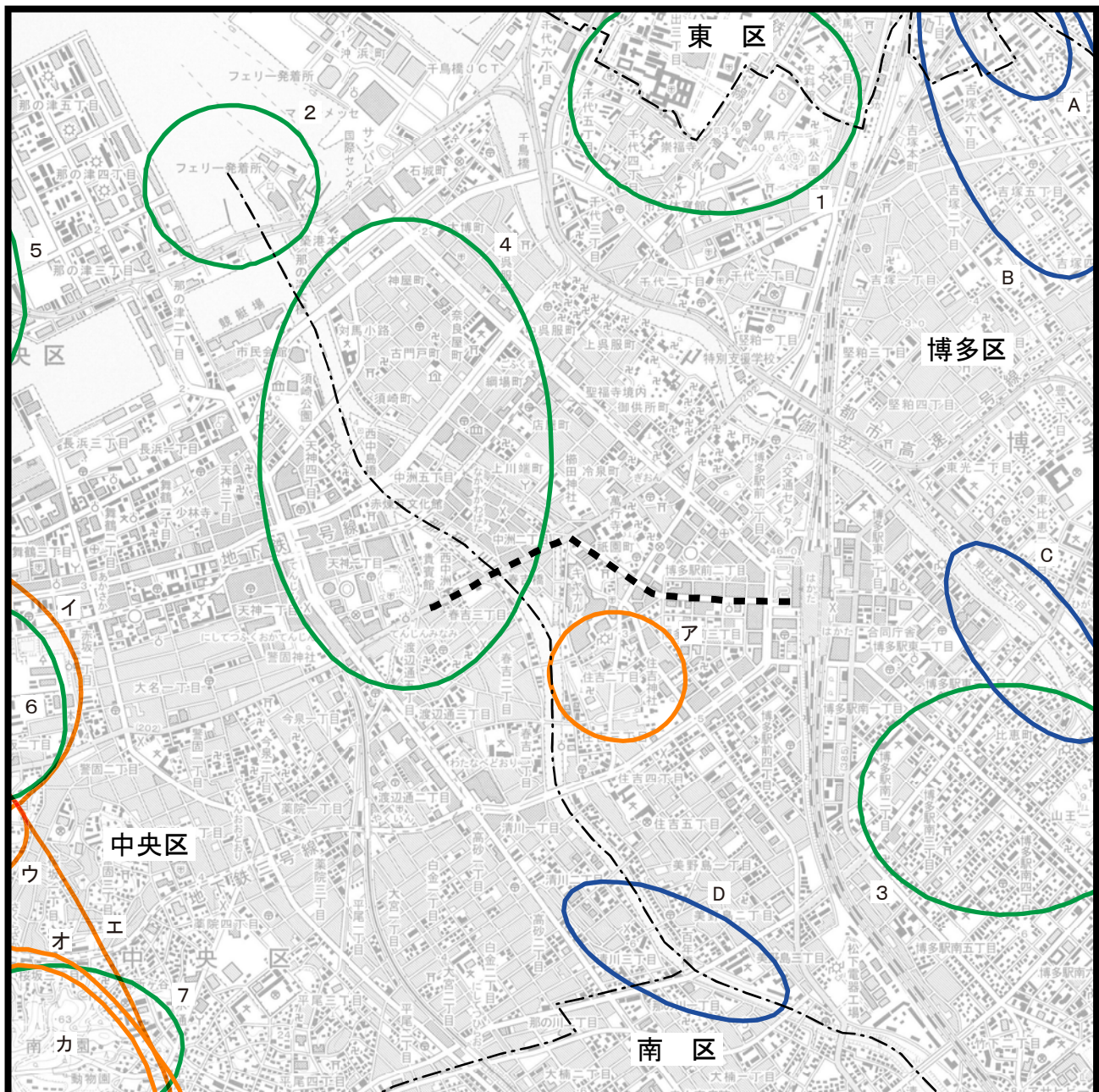
2.1.4 動物、植物、生態系

(1) 動物

福岡市では、「福岡市環境配慮指針（改訂版）」（平成19年2月 福岡市）において、市内で行われた各種の自然環境調査の報告書をもとに貴重な動物の生息状況がとりまとめられています。

その調査結果より、対象事業実施区域及びその周辺における貴重な動物の生息状況について表2.1-34及び図2.1-22にとりまとめました。

ほ乳類、両生類、は虫類及び底生生物については、貴重種の生息は確認されていません。



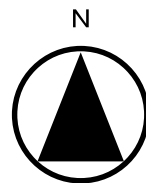
凡例

----- 対象事業実施区域

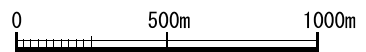
○ 鳥類

○ 昆虫類

○ 魚類



1:25,000



出典：「福岡市環境配慮指針（改訂版）」（平成19年2月、福岡市）

図2.1-22 貴重な動物の確認位置図

表 2.1-34 (1) 対象事業実施区域周辺における貴重な動物の一覧（鳥類）

種名	カテゴリー				出典資料					確認地点							カテゴリー	出典資料
	環境省 RL	水産庁 RD	福岡県 RD	福岡市環境配慮指針	①	②	③	④	⑤	1	2	3	4	5	6	7		
アオバト				1	○	○	○								○	○	注1) 「環境省 RL」におけるカテゴリー EN：絶滅危惧 I B 類 (EN) VU：絶滅危惧 II 類 (VU) NT：準絶滅危惧 (NT) DD：情報不足 (DD) 注2) 「福岡市環境配慮指針」におけるカテゴリー 1：数の少ない種 2：身近な減少種	①「環境情報基礎データ」（平成 17 年 3 月） ②「アイランドシティ環境モニタリング調査」（平成 5～16 年度） ③「九州大学統合移転事業環境監視調査 平成 16 年度 総合報告書」（平成 17 年 10 月） ④「福岡市環境配慮指針」（平成 9 年 3 月） ⑤「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック 2001－」（平成 13 年 3 月）
アカハジロ	DD		準絶滅危惧		○	○	○	○										
オオヨシキリ			準絶滅危惧		○	○	○	○										
オオルリ			準絶滅危惧		○	○	○	○			○							
オシドリ	DD		準絶滅危惧		○	○	○	○										
カラシラサギ	NT		絶滅危惧 I A 類		○	○	○	○						○				
カンムリカイツブリ			絶滅危惧 II 類		○	○	○	○		○				○	○			
キビタキ			準絶滅危惧	2	○	○	○	○	○		○							
コアジサシ	VU		絶滅危惧 II 類		○	○	○	○						○	○			
コクガン	VU	希少種	準絶滅危惧			○	○	○						○				
コムクドリ				1	○	○	○	○										
サンコウチョウ			絶滅危惧 II 類		○		○	○								○		
ダイシャクシギ			絶滅危惧 II 類		○	○		○						○				
ツクシガモ	EN		絶滅危惧 II 類		○	○		○						○				
ハイタカ	NT		準絶滅危惧		○	○	○	○	○							○		
ハチクマ	NT		準絶滅危惧		○	○	○	○	○					○	○	○		
ハヤブサ	VU		絶滅危惧 II 類		○	○	○	○	○					○	○			
ホウロクシギ	VU		絶滅危惧 II 類		○	○	○	○						○				
ホシムクドリ				1	○	○	○	○								○		
ミサゴ	NT		準絶滅危惧		○	○	○	○						○	○	○		
ミヤコドリ				1	○	○	○	○								○		
ヤツガシラ				1	○		○									○		

表 2.1-34 (2) 対象事業実施区域周辺における貴重な動物の一覧（昆虫類）

種名	カテゴリー			出典資料									確認地点						カテゴリー	出典資料	
	環境省 RL	福岡県 RD	福岡市環境配慮指針	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	ア	イ	ウ	エ	オ	カ			
アオヤンマ			情報不足	4			○	○							○					注1) 「環境省 RL」におけるカテゴリー VU：絶滅危惧 II 類 (VU) NT：準絶滅危惧 (NT) 注2) 「福岡市環境配慮指針」におけるカテゴリー 3：蝶 RDB 危急種 4：特定昆虫 (B)：分布域が国内若干の地域に限定されている種 5：特定昆虫 (C)：普通種であっても、北限・南限など分布限界になると思われる産地に分布する種 6：特定昆虫 (G)：環境指標として適当であると考えられる種	①「自然環境調査（福岡市行きにおける昆虫の生息状況調査）委託」（平成 9 年度） ②「自然環境調査（室見川における昆虫の生息状況調査）」（平成 10 年度） ③「平成 11 年度 自然環境調査（ため池の貴重種生物の生息状況調査）」（平成 12 年 3 月） ④「平成 13 年度 自然環境調査（ため池の生態系調査）委託」（平成 14 年 3 月） ⑤「平成 14 年度 市域生態系調査委託」（平成 15 年 3 月） ⑥「九州大学統合移転事業環境監視調査 平成 16 年度 総合報告書」（平成 17 年 10 月） ⑦「福岡市環境配慮指針」（平成 9 年 3 月） ⑧「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック 2001－」（平成 13 年 3 月） ⑨ 専門家からのヒアリング情報
アカシジミ		絶滅危惧 II 類	4																		
エサキアメンボ	NT	絶滅危惧 II 類				○								○							
クロセセリ			5				○											○			
コムラサキ		絶滅危惧 II 類	3				○							○							
タイワンウチワヤンマ			5				○	○	○	○				○							
ベニイトトンボ	VU						○	○						○							
ミカドアゲハ							○							○				○			
ミズイロオナガシジミ		絶滅危惧 II 類	3															○			
ヨツボシトンボ			5・6											○							

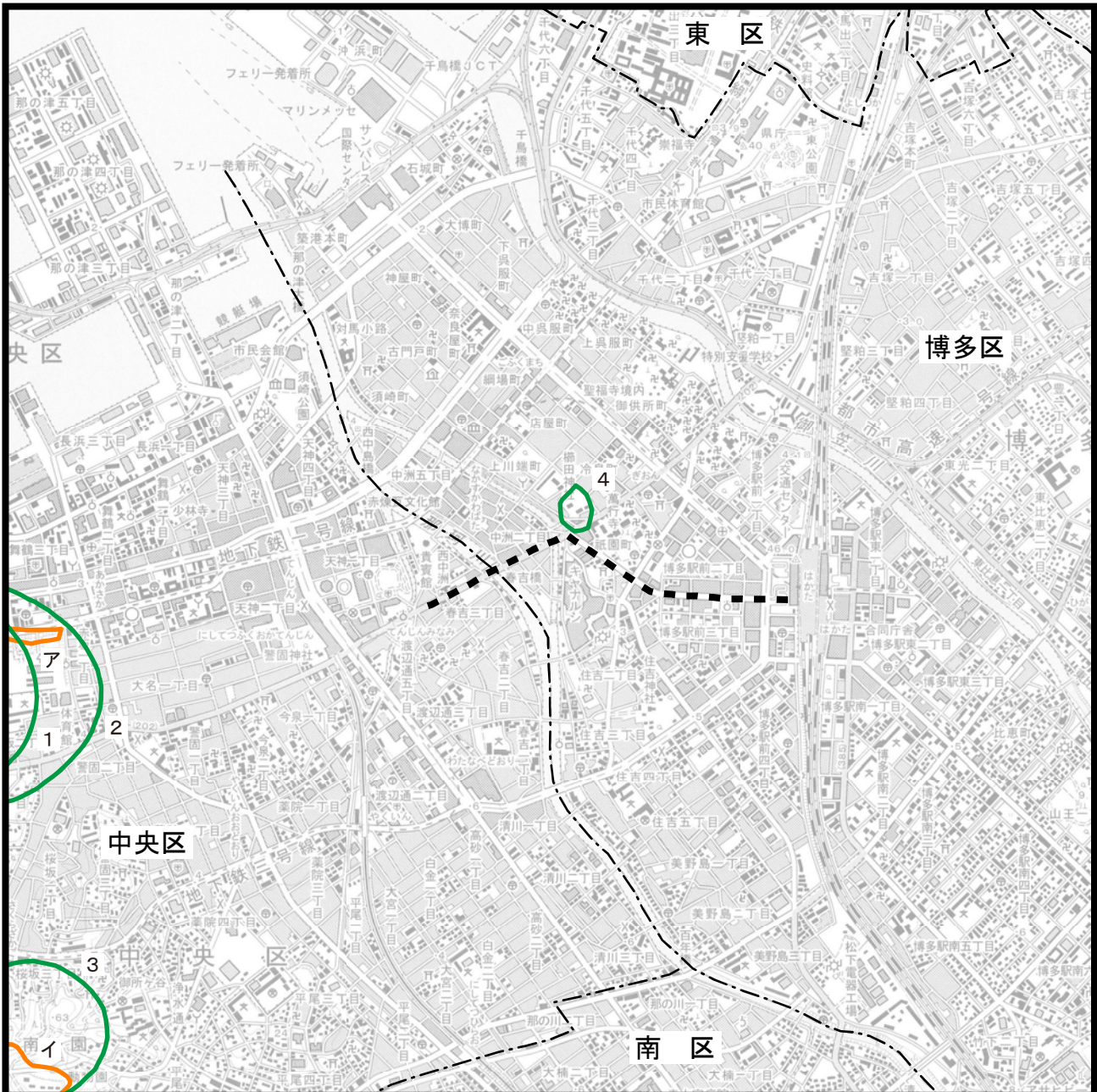
表 2.1-34 (3) 対象事業実施区域周辺における貴重な動物の一覧（魚類）

種名	カテゴリー				出典資料										確認地点				カテゴリー	出典資料	
	環境省 RL	水産庁 RD	福岡県 RD	福岡市環境配慮指針	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	A	B	C	D			
アユ			天然不明		○		○												○	注1) 「環境省 RL」におけるカテゴリー CR：絶滅危惧 I A 類 (CR) VU：絶滅危惧 II 類 (VU) 注2) 「福岡市環境配慮指針」におけるカテゴリー 2：身近な減少種	①「自然環境調査（室見川における貴重種魚類の生息状況調査）」（平成 11 年 3 月） ②「平成 11 年度 自然環境調査（ため池の貴重種生物の生息状況調査）委託」（平成 12 年 3 月） ③「自然環境調査（河川における水生生物の生息状況調査）委託」（平成 12 年 3 月） ④「自然環境調査（里地の細流等における貴重種魚類の生息状況調査）委託」（平成 13 年 3 月） ⑤「平成 13 年度 自然環境調査（ため池の生態系調査）委託」（平成 14 年 3 月） ⑥「平成 15 年度 今津干潟保全対策調査委託」（平成 16 年 3 月） ⑦「九州大学統合移転事業環境監視調査 平成 16 年度 総合報告書」（平成 17 年 10 月） ⑧「福岡市環境配慮指針」（平成 9 年 3 月） ⑨「福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック 2001－」（平成 13 年 3 月） ⑩ 専門家からのヒアリング情報
ウナギ			準絶滅危惧		○		○											○			
ニッポンバラタナゴ	CR	絶滅危惧種	絶滅危惧 II 類				○							○				○			
メダカ	VU		準絶滅危惧	2	○		○	○	○									○			

(2) 植 物

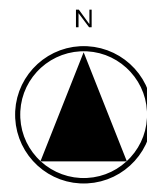
福岡市では、「福岡市環境配慮指針（改訂版）」（平成19年2月 福岡市）において、市内で行われた各種の自然環境調査の報告書をもとに貴重な植物の生育状況がとりまとめられています。

その調査結果より、対象事業実施区域及びその周辺における貴重な植物の生育状況について表 2.1-35 及び図 2.1-23 にとりまとめました。



凡例

- 対象事業実施区域
- 植物
- 植物群落



1:25,000



出典：「福岡市環境配慮指針（改訂版）」（平成19年2月、福岡市）

図2.1-23 貴重な植物の確認位置図

2. 対象事業実施区域及びその周囲の概況

対象事業実施区域及びその周辺には、4種の貴重種の生育が確認されており、貴重な植物群落は2カ所確認されていますが、対象事業実施区域にかかることはありません。

表 2.1-35 (1) 対象事業実施区域周辺における貴重な植物の一覧 (植物種)

種名	カテゴリー				出典資料								確認地点			
	環境省 RL	福岡県 RD	福岡市環境 配慮指針	福岡県指定 天然記念物	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	1	2	3	4
カンサイタンポポ			2									○		○		○
スマレ			2									○		○		○
ツクシオオガヤツリ	EN	絶滅危惧 IB類		○	○			○			○	○		○		
櫛田の銀杏				○							○					○

注1) 「環境省 RL」におけるカテゴリー EN: 絶滅危惧 IB類 (EN)

注2) 「福岡市環境配慮指針」におけるカテゴリー 2: 身近な減少種

注3) 出典資料: ①「平成8年度 自然環境調査(市域における貴重植物及び今津塩沼地植物)委託」(平成9年3月)
 ②「平成11年度 自然環境調査(ため池の貴重種生物の生息状況調査)委託」(平成12年3月)
 ③「地域制体系等調査(東平尾・金隈地域)」(平成13年3月)
 ④「平成13年度 自然環境調査(ため池の生態系調査)委託」(平成14年3月)
 ⑤「平成15年度 今津干潟保全対策調査委託」(平成16年3月)
 ⑥「九州大学統合移転事業環境監視調査 平成16年度 総合報告書」(平成17年10月)
 ⑦「福岡市環境配慮指針」(平成9年3月)
 ⑧「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2001-」(平成13年3月)

出典:「福岡市環境配慮指針(改訂版)」(平成19年2月 福岡市)

表 2.1-35 (2) 対象事業実施区域周辺における貴重な植物の一覧 (植物群落)

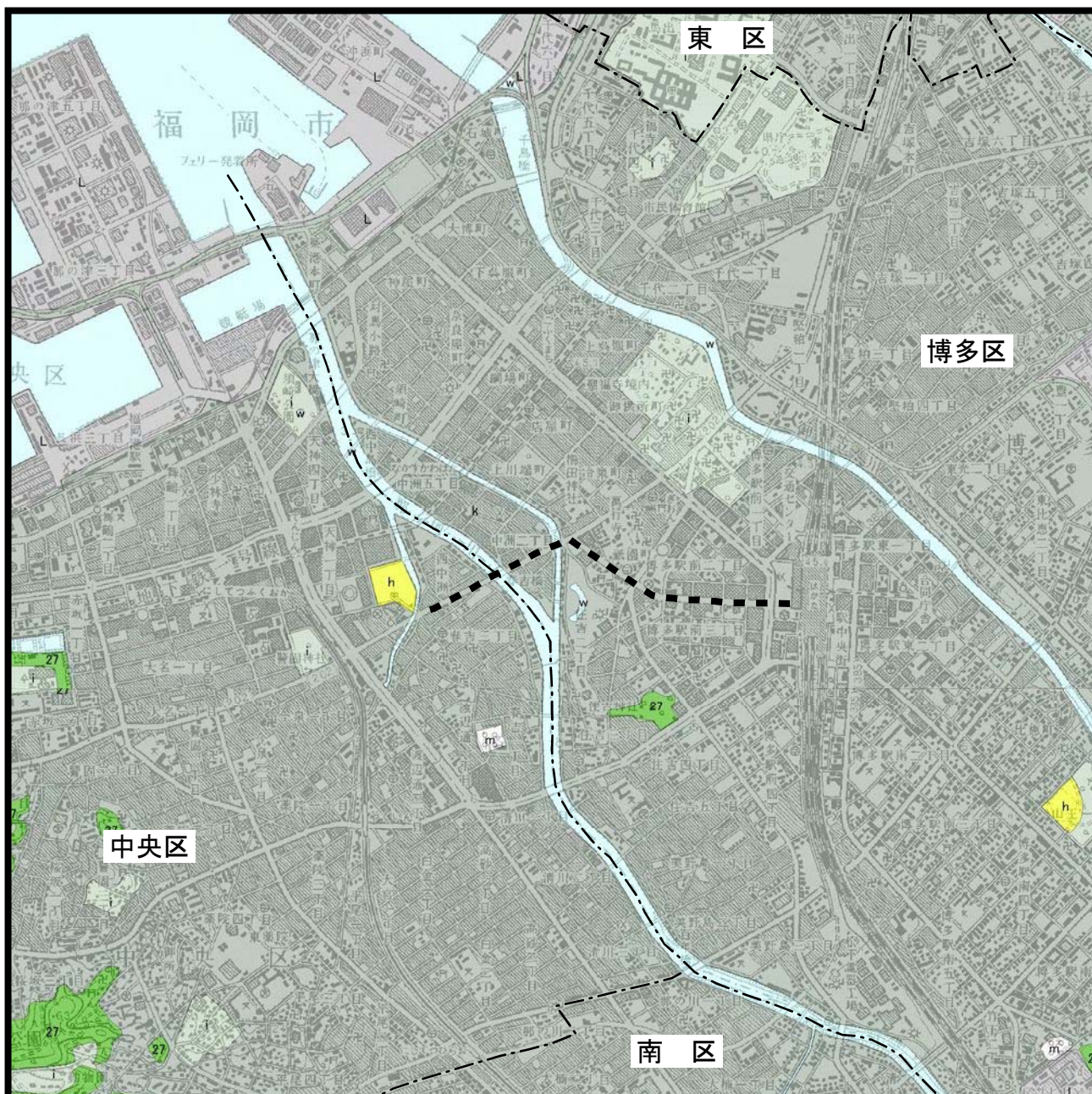
種名	集約群落名	選定基準	備考	出典資料			確認地点	
				①	②	③	ア	イ
南公園のスダジイ林	スダジイ群落	郷土景観	特定植物群落	○				○
福岡城堀内の水生植物群落	ツクシオオガヤツリ群落	県RDBカテゴリーII	県指定植物群落	○				○

注3) 出典資料: ①「第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書 環境庁」(平成12年3月)

②「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2001-」(平成13年3月)

③「福岡市環境配慮指針」(平成9年3月)

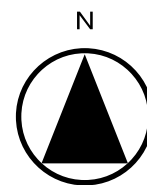
出典:「福岡市環境配慮指針(改訂版)」(平成19年2月 福岡市)



凡例

- 対象事業実施区域
- 27 シイ・カシ二次林
- h ゴルフ場・芝地
- i 緑の多い住宅地
- k 市街地
- L 工場地帯
- m 造成地
- w 開放水域

出典：「第6回・第7回自然環境保全基礎調査（現存植生図：福岡）」
 「第6回・第7回自然環境保全基礎調査（現存植生図：福岡南部）」



1:25,000



図2.1-24 現存植生図

対象事業実施区域及びその周辺における植生は、**図 2.1-24** に示すとおりであり、「市街地」が大半を占めています。

(3) 生態系の状況

福岡市では、「福岡市環境配慮指針（改訂版）」（平成19年2月 福岡市）において、市内で行われた各種の自然環境調査の報告書をもとに身近な生きものの出現状況がとりまとめられています。

その調査結果より、対象事業実施区域及びその周辺における身近な生きものの出現状況について表 2.1-36 及び図 2.1-25 にとりまとめました。

なお、確認範囲図は、植林、農地、市街地、海域等の分布をもとに地域を大きく8区分（植林を中心とする地域、農地を中心とする地域、植林が点在する市街地、農地が点在する市街地、市街地、沿岸部（市街地型）、沿岸部（自然海岸あり）、島しょ・半島部）に分けられています。

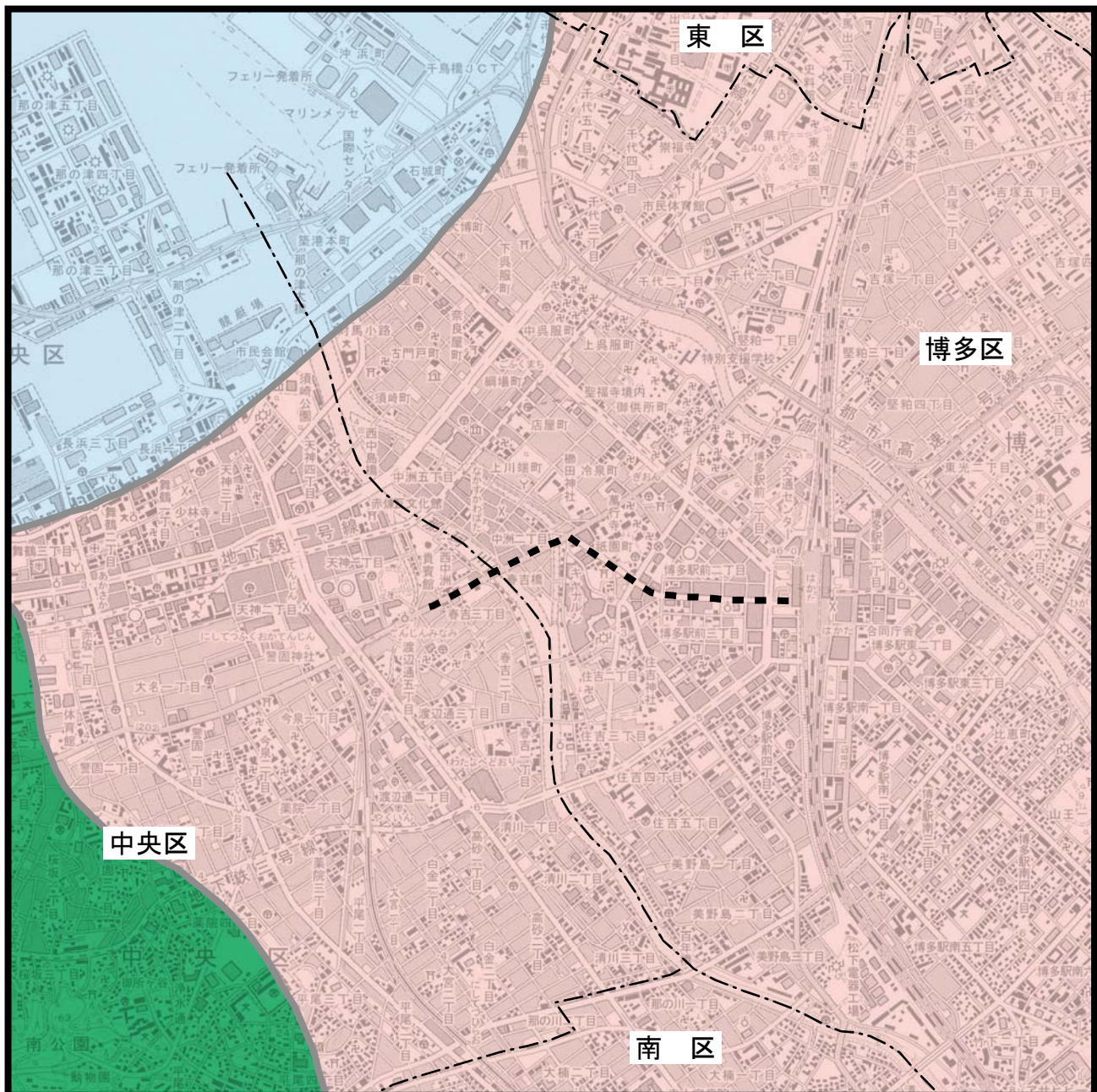
対象事業実施区域及びその周辺は、緑の少ない市街地で占められています。これらの地域では植物相（図 2.1-24 参照）、動物相は貧弱で（表 2.1-36 参照）猛禽類のような上位種は確認されておらず、ドバトや移動性の高い蝶類などが生息する都市型の生態系が形成されています。

一方、このような環境の中で、那珂川等の河川や公園などの緑地が点在しており、動物の生息場所になっているものと考えられます。

表 2.1-36 身近な生きものの出現状況一覧

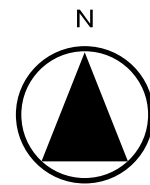
種 類	地域名	市街地 (博多駅・天神地区周辺)	博多湾沿岸	公園・緑地の多い市街地 (南公園～西公園)
ほ乳類・は虫類 ・両生類		アブラコウモリ ヤモリ	アブラコウモリ	アカネズミ カナヘビ コウベモグラ ヤモリ
鳥 類		カワラバト（ドバト） スズメ ハクセキレイ ヒヨドリ	ウミネコ カワウ スズメ セグロカモメ（冬） トビ ハクセキレイ ハシブトガラス ホシハジロ（冬） ユリカモメ（冬）	エナガ コゲラ シロハラ（冬） ハシブトガラス メジロ ヤマガラ
昆虫類		アオスジアゲハ イチモンジセセリ ウスバキトンボ クマゼミ ヤマトシジミ	アオスジアゲハ ウスバキトンボ クマゼミ ヤマトシジミ	アブラゼミ キリギリス クロアゲハ コムスジ ショウジョウトンボ シロスジカミキリ チョウトンボ ムラサキシジミ

出典：「福岡市環境配慮指針（改訂版）」（平成19年2月 福岡市）

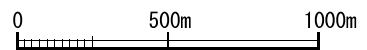


凡例

- 対象事業実施区域
- 市街地（博多駅周辺・天神地区周辺）
- 博多湾沿岸
- 公園・緑地の多い市街地（南公園～西公園）



1:25,000



出典：「福岡市環境配慮指針（改訂版）」（平成19年2月、福岡市）

図2.1-25 身近な生きものの確認範囲図

2.1.5 景観及び人と自然との触れ合いの活動の場

(1) 景観資源の状況

対象事業実施区域及びその周辺における、景観資源の状況は、表 2.1-37 及び図 2.1-26 に示すとおりです。

福岡市では、「福岡市環境配慮指針（改訂版）」（平成 19 年 2 月、福岡市）において、市内で行われた「第 3 回自然環境保全基礎調査」の報告書をもとに、市内の快適環境資源リストを作成しています。

福岡市内の自然景観は、山地景観の脊振山地や海岸景観の海の中道など 28 箇所ありますが、対象事業実施区域及びその周辺には、自然景観資源は存在しません。ただし、1996 年に環境庁が全国各地で人々が地域のシンボルとして大切にし、将来に残していきたいと願っている音の聞こえる環境（音風景）として選定した「日本の音風景 100 選」に「博多祇園山笠（の舁き山笠）」が選定されています。また、地域の人々がシンボルとして大切にし、将来に残しておきたいと願っている音風景を、市民を対象としたアンケート等から選定した「残したい福岡の音風景 21」に「天神の蟬時雨」、「師走の柳橋連合市場の売り声」などが選定されています。そのほか、福岡アメニティ百選として、「ベイサイドプレイス」、「大博通り」などが選定されています。

表 2.1-37 景観資源の状況

図中 番号	件名(名称)	図中 番号	件名(名称)
1	博多どんたく(のしゃもじ)※	13	大博通り
2	博多祇園山笠(の舁き山笠)※ 博多祝いめでた・博多手一本※	14	櫛田神社と承天寺
		15	中洲
3	天神の蟬時雨※	16	御笠川
4	天神地下街のからくり時計※	17	住吉神社
5	大相撲九州場所の触れ太鼓	18	山王公園
6	キャナルシティの噴水※	19	城内お堀端通り
7	師走の柳橋連合市場の売り声※	20	赤坂けやき通り
8	御供所地区の除夜の鐘※	21	紺屋町
9	博多人形・博多織(の機織の音)	22	福博プロムナード
10	ベイサイドプレイス	23	浄水通り
11	堅粕1丁目の石蔵酒造	24	南公園
12	聖福寺から西教寺前通り	—	博多にわか※

※は「残したい福岡の音風景21」を示します。

出典：「福岡市環境配慮指針（改訂版）」（平成19年2月、福岡市）

(2) 人と自然との触れ合いの活動の場の状況

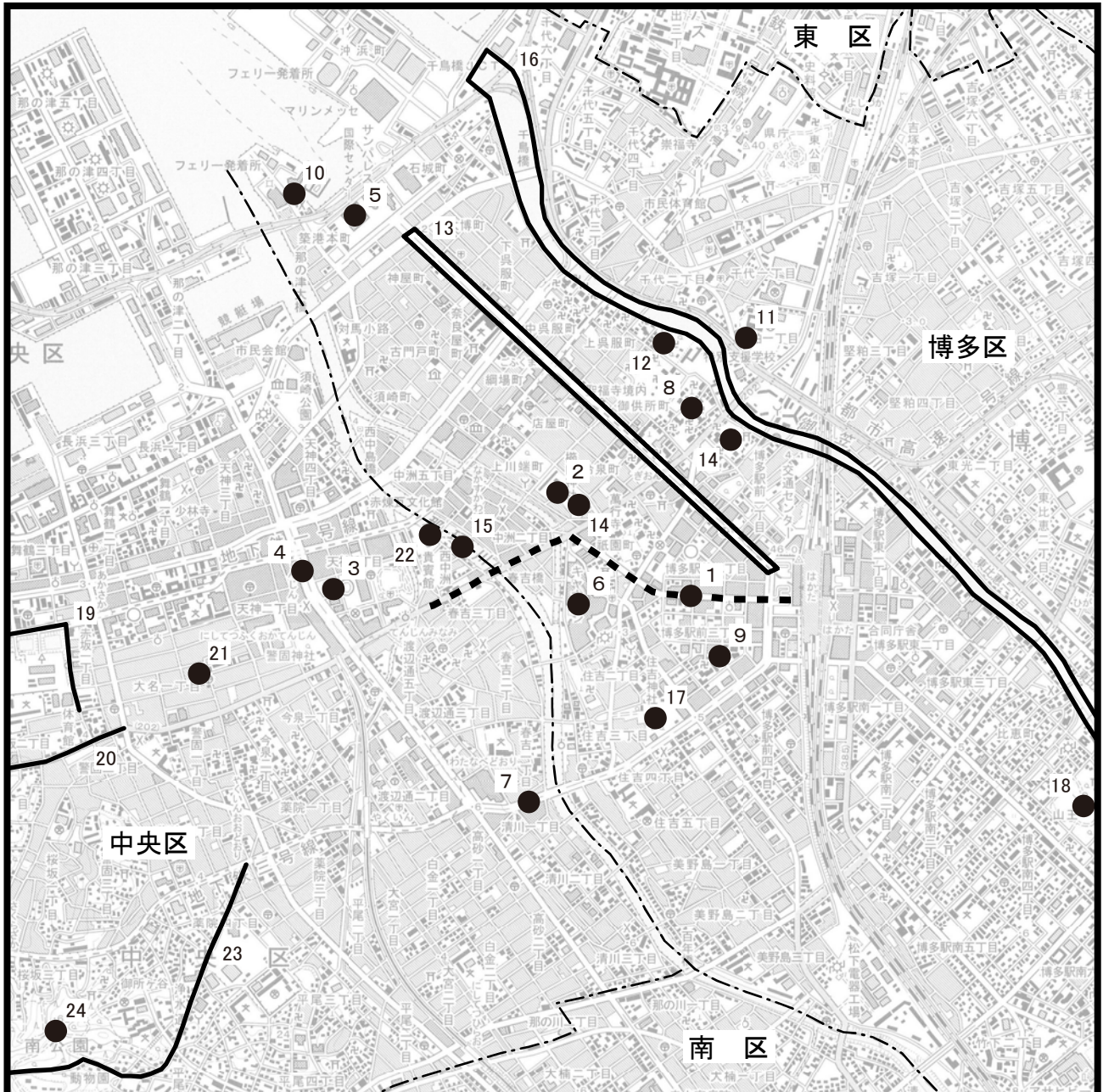
対象事業実施区域及びその周辺における、人と自然との触れ合いの活動の場は、表 2.1-38 及び図 2.1-27 に示すとおりです。

対象事業実施区域には、自然・憩いの場の天神中央公園や、ウォーキングコースの桜コースや晴好周遊コースがあります。

表 2.1-38 人と自然との触れ合いの活動の場

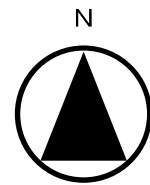
図中番号	種 別	施設（コース）名
1	自然・憩いの場	楽水園
2		東公園
3		ベイサイドプレイス
4		ポートタワー
5		山王公園
6		美野島南公園
7		警固2号公園
8		天神中央公園
9		西展望台
10		南公園
11		福岡市動物園
12		浄水緑地
13		みどりの水辺
14		にぎわいの水辺
15		いざないの水辺
16	ウォーキングコース	大浜公民館～ベイサイドプレイスコース
17		東公園内周遊コース
18		吉塚まちなめぐりコース
19		山王公園周遊コース
20		那珂川河川敷コース・りぼん橋コース
21		海風コース
22		舞鶴公園ルート
23		城址緑陰ルート
24		ふくろうの森ルート
25		はなみずき・山の手ルート
26		風景コース
27		歴史コース
28		道草コース
29		桜コース
30		清高コース
31		晴好周遊コース
32		動植物園外周コース
33		平尾校区周回コース
34		動植物園探検コース
35		南公園周回コース
36		お気軽コース（初心者向け）
37		春のコース（中級者向け）
38		秋のコース（上級者向け）
39		犬、人、季節の花ふれあいコース
40		花めぐりコース
41		がんばろうコース
42		歩いてみよう緑と水辺と街並みを！

出典：「福岡市環境配慮指針（改訂版）」（平成19年2月、福岡市）
「福岡市ウォーキングマップ」（福岡市ホームページ）

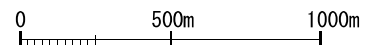


凡例

- 対象事業実施区域
- 景観資源

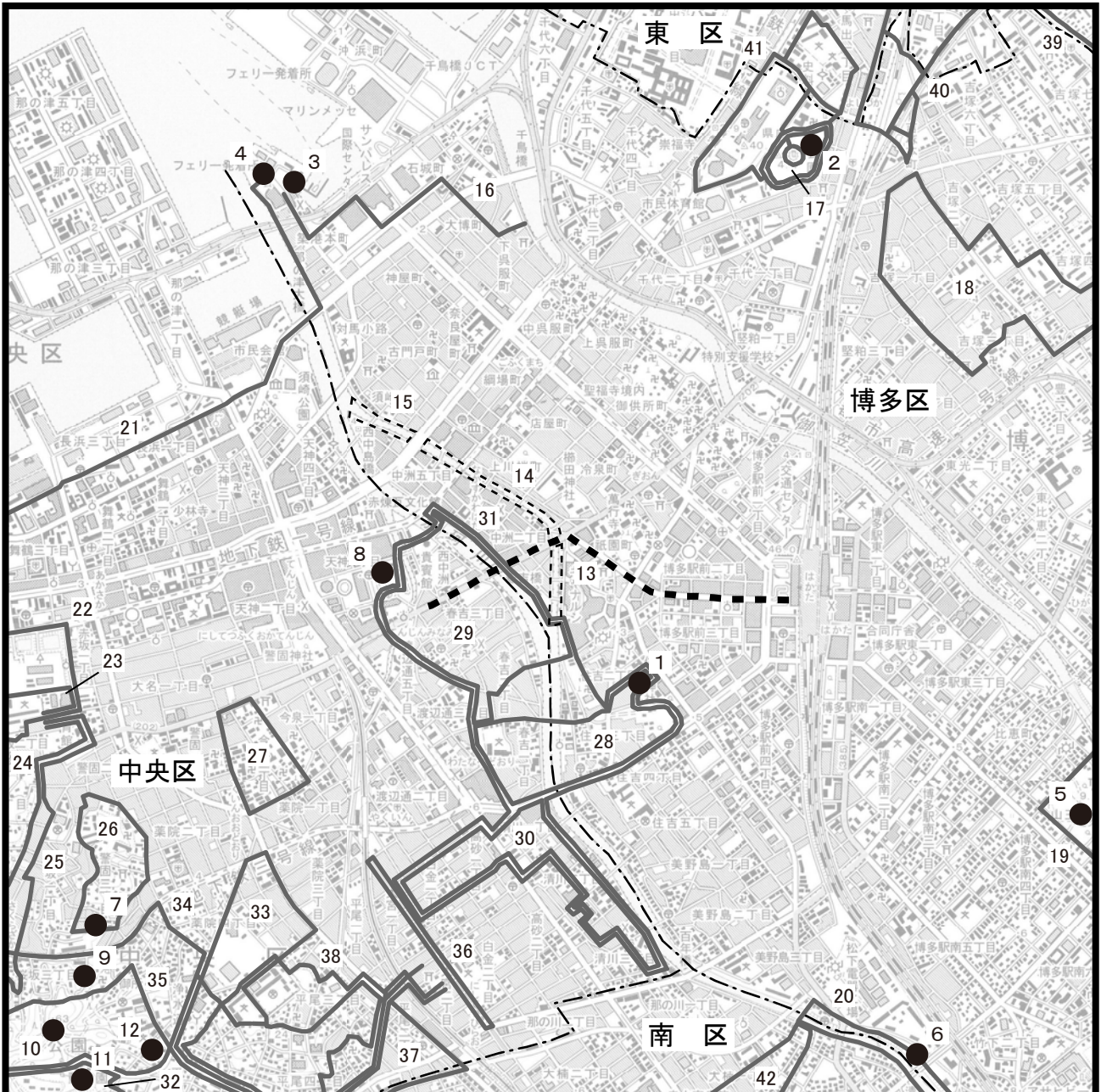


1 : 25,000



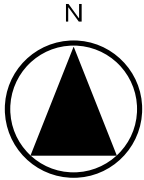
出典：「福岡市環境配慮指針（改訂版）」（平成19年2月、福岡市）

図2.1-26 景観資源の状況



凡例

- 対象事業実施区域
- (---) 自然・憩いの場
- ウォーキングコース



1 : 25,000



出典：「福岡市環境配慮指針（改訂版）」（平成 19 年 2 月、福岡市）
「福岡市ウォーキングマップ」（福岡市ホームページ）

図2.1-27 人と自然との触れ合いの活動の場の状況